アメリカのガソリンスタンドで働くおじさんが着ていそうなワッペン付きのワークシャツに、西海岸のチカーノたちにこぞってはかれた〈ディッキーズ〉のセルフォンポケット付きショーツ。そして、アメリカの労働者たちの足元をタフに支えてきた〈レッド・ウィング〉のスーパーソールと、いずれもワークウェアの超定番。そんなクラシックをパズルのように組み替えると、こんなにも上品に見えてしまうからワークウェアって面白い。どれも手頃だからいくらでも実験できるし。しかし、ニットキャップといい、この格好、誰かに似ているなぁ。映画『マイ・プライベート・アイダホ』のリヴァー・フェニックスかな。

ニットキャップ¥3,800（ニューヨーク ハット／ダンジル☎042-720-8703） ユーズドの〈ユニフォーム FR〉のワークシャツ¥2,900（原宿シカゴ 表参道店☎03-3409-5017） 中に着たTシャツ¥1,100（ユナイテッドアスレ／キャブ☎03-5625-6312） ショーツ¥4,900（ディッキーズ／ディッキーズ プレスルーム☎03-6434-1582） ソックス（6足パック）¥1,800（レイルロードソックス／ハイ！スタンダード☎03-3464-2109） ブーツ¥28,700（レッド・ウィング／レッド・ウィングジャパン☎03-5791-3280）

ワークシャツとワークパンツ。その上からワークジャケットを羽織った着こなしがいいなぁと思ったのは、映画『バターソン』だ。主人公のバターソンはバス運転手。毎日、仕事場と自宅を往復しては、暇な時間を見つけて詩をノートに書きつける超がつくほど真面目な男だ。そんな彼の〝ユニフォーム〟からは真面目な人柄が滲み出ていて、かっこいいのだ。仕事もプライベートもいけるし、そもそもタフだから仕事帰りにスケボーだってできちゃうワークウェアの一張羅。彼はネイビーだったけど、天邪鬼な僕らはグリーンで。だって、緑色って、思慮深さや慎ましさを秘めているような感じがするじゃない。勝手ながらも、〝ワークグリーン〟と呼ぶことにでもしようか。

Early Summer To Do List 22-6

ディッキーズのワークブルゾン

Early Summer To Do List 22-7

レッドキャップのワークシャツ

デッドストックの〈ディッキーズ〉のブルゾン¥8,800（カメレオンウェアハウス☎03-3478-4778） ユーズドの〈レッドキャップ〉のワークシャツ¥2,900（原宿シカゴ 表参道店） ユーズドの〈ディッキーズ〉のワークパンツ（サンタモニカ 表参道店☎03-3498-3260） その他は私物

Early Summer To Do List 22-14

ノーブランドのベスト

Early Summer To Do List 22-12

マキタのTシャツ

Early Summer To Do List 22-8

タフインクのハーフジップスウェット

欧米では作業員は、みな蛍光色のワークウェアを着ているが、これがポップでかっこいい。かの地ではハイ・ヴィジビリティウェアと呼ばれ、初めて現場に持ち込まれたのは、1965年！ イギリスの鉄道会社が作業服（そのときは蛍光オレンジ）に使ったのが始まりとか。それからイエローも加わり、朝のグレープフルーツジュースのように普段のワードローブにも組み込まれるようになった。こうして集めてみると、意外と優しい色合いに気づく。どうりで僕らの生活にも馴染むわけだ。

Early Summer To Do List 22-9

ロイフトフォイヤーのニットキャップ

Early Summer To Do List 22-15

ケニヨンのフリースマフラー

Early Summer To Do List 22-10

ボンズのタンクトップ

Early Summer To Do List 22-16

ディッキーズエマージェンシーのオーバーパンツ

Early Summer To Do List 22-13

チンタスのセットアップ

Early Summer To Do List 22-11

ステッドラーの蛍光ペン

砲弾型ペン先は、弾力があり、細かい線からマーキングまでこれ1本で描ける。￥130※税込み（ステッドラー日本 お客様相談室☎03・5835・2815）

22-15. KENYON

蛍光イエローとネイビーは抜群に相性がいいから、ネイビーのポーラテックのマフラーと組み合わせたくなる。これは米軍御用達のアメリカンアウトドアブランド〈ケニヨン〉のもので、極寒の地の建設労働者の支持も高い。￥3,000（乱痴気セントリューム）

22-13. CINTAS

アメリカの企業系ワークシャツのほとんどを手掛けるという専門メーカー〈チンタス〉。蛍光イエローの反射板と、ネイビーコットンの相性が絶妙。シャツ￥3,900（原宿シカゴ表参道店☎03・3409・5017） パンツ￥4,900（サンタモニカ 渋谷店☎03・3462・1984）

22-10. BONDS

〈ボンズ〉は、オーストラリアの国民的なアンダーウェアメーカー。100年以上続く老舗なのだが、なぜか蛍光イエローのタンクトップなんて洒落たものも作っている。ベースレイヤーだから、普段は見えないけど、夜の安全確認にはちょうどいい。￥1,000（ダンジル）

22-8. TOUGH INC

"タフインク"という名前からして、ワークウェアメーカーらしい潔さがムンムン漂うスウェット。そんなマッチョな印象とは裏腹に、蛍光イエローとネイビーのバランスが完璧。センスが良すぎる。ハーフジップスウェット￥5,800（ダンジル☎042・720・8703）

22-16. DICKIES EMERGENCY

こちらは、〈ディッキーズ〉のプロライン。防水透湿性のあるナイロンを使ったオーバーパンツで、道路工事や交通整理の作業員たちが愛用しているとか。ご覧のとおりの極太シルエットだから、いつもの感じではける。パンツ￥8,800（ソフツ☎0422・45・5433）

22-14. NO BRAND

西新宿の作業服店「萬年屋」は、手頃で目から鱗なワークウェアの宝庫。蛍光イエローのベストは、警備員や道路作業員が愛用するものらしいけど、オーバーサイズで作られているので、白いTシャツの上からガバッと。￥1,680※税込み（萬年屋☎03・3373・1111）

22-12. MAKITA

インパクトドライバーといえば、有無を言わさず「マキタ」である。でも実はウェアも充実している。蛍光イエローのボディに、シンプルな書体のロゴ1点。ワークメーカーらしい潔さ。￥4,596※税込み（スマイルステージイクイップメント☎03・6453・4720）

22-9. LEUCHTFEUER

こちらは、ドイツの海のオトコたちから信頼も厚い、1956年創業のマリンニットウェアメーカー〈ロイフトフォイヤー〉のもの。アクリルニットのパキッとした発色は、灯台のように眩しい。ニットキャップ￥2,800（乱痴気セントリューム☎03・5766・8415）

知らぬ間に、〈カーハートWIP〉のアクティブジャケットにホワイトが出ていた。1975年に登場したこのジャケットは、オン・オフで使える初めてのワークウェアとしてかなり革命的だったみたいだけど、そんなルーツを聞いたら、'90年代にラッパーたちがやたらと着ていたことも頷けるし、作業着の概念からは程遠い、ホワイトカーハートが生まれたことにも納得。しかし、お馴染みダックブラウンが真っ白になるだけで、モードブランドのように生まれ変わるとは！　名曲「インターギャラクティック」のビースティ・ボーイズみたいでかっこいい。逆にオールブラックっていう選択もある。モノトーンで揃えたくなるね。

Early Summer To Do List 22-17

カーハートWIPのアクティブジャケット

Early Summer To Do List 22-18

カーハートWIPのパンツ

Early Summer To Do List 22-19

ワークキングのキルティングベスト

Early Summer To Do List 22-20

タフダックのワークパンツ

上／アクティブジャケット¥26,000、パンツ¥14,000（ともにカーハートWIP／カーハートWIPストア☎03-3402-9810）　シューズ¥10,800（青木安全靴／青木産業☎03-5603-8681）　その他は私物　下／キルティングベスト¥8,000（ワークキング／乱痴気セントリューム）　ユーズドの〈プロファイブ〉のサーマルカットソー（ダンジル）　パンツ¥11,800（タフダック／ソフツ）　その他は私物

『ワークマン』や『ダイソー』などの量販店には、いい小物たちが眠っている。リフレクターストラップが効いたキャップや、青と赤のペイズリー柄を真ん中でがっちゃんこしたバンダナなど、ナイスアイデア！な商品は他ではまず見ないし、何より安い。それに作られた経緯が一瞬わからず「？」になっちゃう謎なものもゴロゴロあるから、時間がいくらあっても足りない。〈日本一〉の軍手リストバンドは、その最たる例だけど、ロンTの袖下に着けたらビンゴ！　まるでデザイナーズのような佇まいに。そうそう、安全靴にもいいのがあった。〈青木安全靴〉って専門ブランドで、ひと昔前の渋いスケートシューズみたいで格好いい。職人だけのものにしとくのはもったいないものばかりだね。

ベルクロのアジャスターに反射テープが仕込まれたダッド型のキャップ。色は全部で6種類だが、ネイビーがベスト。￥399※税込み（ワークマン　www.workman.co.jp）　西海岸のギャングスタラップフリークにやたらと人気のあるペイズリー柄のバンダナ￥100（ダイソー／大創産業☎082-420-0100）

軍手の手が入る部分を潔くカットした、パンクなルックスのリストバンド。印刷業のような、袖口を汚しがちなワーカーのために作られたもの。6枚セット。ユーズドの〈ヘインズ〉のカットソー￥1,000（ダンジル☎042-720-8703）リストバンド￥318※税込み（日本一／ワークマン）　その他は私物

日本で初めて安全靴を作った青木健之助が、1951年にスタートした専門メーカー。JIS規格の耐衝撃性能と耐圧迫性能をクリアしているので、スケボーにも向く。スニーカー￥11,400（青木安全靴／青木産業☎03-5603-8681）ソックス（レイルロード ソックス／ハイ！スタンダード☎03-3464-2109）　その他は私物

ニットポロで風を切る。

ニットポロを着ていると、とにかく気持ちがいい。素肌に触れたときのあの柔らかさも、ちょっと上等なものを着ている気分のよさも。

あまりに気持ちがいいものだから、いつもは歩く道をレンタサイクルで走ってみようかと試してみたら、これがまた最高で、たっぷり風を含んだときのシルエットも我ながらめちゃくちゃ優雅。右がカシミヤで、左はお馴染みのコットン。色は潔く、涼しげなグレーやホワイトを選ぶのがいいと思う。濃い色ばかりで意外と着ていなかった気もするし。

POP-EYE 24 Fashion

Early Summer To Do List 24-1

エイチビューティ&ユースのニットポロ

カシミヤ素材のニットポロ¥22,000（エイチ ビューティ&ユース☎03-6438-5230）ユーズドのライオンキングのキャップ¥4,000（TOXGO☎03-3408-6779） ヴィンテージの（リーバイス）のデニムパンツ「606」¥128,000（STRATO☎03-6886-7195） ’70sヴィンテージの（ロレックス）の時計「REF341002-127」¥248,000（ワンミニッツギャラリー☎03-3478-2874）その他は私物

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: Yoshikazu Miyamoto edit: Ryoko Iino

コットン素材のニットポロ￥26,000（ジョン スメドレー／リーミルズ エージェンシー☎03-5784-1238） Tシャツ￥1,200（ヘインズ／サンタモニカ 渋谷店☎03-3462-1984） ユーズドのチノショーツ￥9,800（ダンジル☎042-720-8703） コットン素材のリブソックス￥4,800（コーギー／ホームステッド☎03-6455-4460） シューズ「デザートロンドン」￥22,000（クラークス／ビューティ＆ユース ユナイテッドアローズ 渋谷公園通り店☎03-5428-1893） ユーズドのバックパック￥7,800（ベルベルジン☎03-3401-4666） '40sヴィンテージの〈IWC〉のイギリス軍ミリタリーウォッチ「Mark X」￥900,000（ワンミニッツギャラリー）

Early Summer To Do List 24-2

ジョン スメドレーの ニットポロ

品のいいヴィンテージジーンズを探して。

POP-EYE 25 Fashion

ヴィンテージジーンズって、大切な記念日に超高級なステーキを食べたくなるように、1年に1回は猛烈に欲しくなる。自分の人生よりもおそらく長生きしている〝先輩感〟に惹かれるのか、はたまた同じものが二つとない〝とっておき感〟に心が揺れ動くのか。どんな買い物よりも背筋が伸びるというか、買ってやったぞ！　感があるのだと思う。だけど、いわゆるヒゲやハチノスがバリバリに入った骨太さを求めているわけでないのも事実。西海岸の晴れわたる青い空のような、そして1980年代のイタリアのパニナロたちがはいていたような。今欲しいのは、清潔感があって品のいい一本。それでいうと、どうやら'70年代の〈リーバイス®〉の「505」がいいらしい。実際に彼らも〈リーバイス®〉を愛用していたそうだし、古着に詳しい友人に聞けば、この年代に作られた「505」は、防縮加工が施されているので、いわゆるザ・ヴィンテージな色落ちをしないものが多いとも。そんな耳寄りな情報を引っ提げて、いざ買わん！　と『ジャンティーク』を覗いてみたのだが……。店主の内田斉さんからは「もっと面白いものがあるよ！」と、いきなり出ばなを挫かれた。

それは何かというと、'60年代のビッグサイズのレディスジーンズ。生まれてこの方、女性ものをはこうなんて考えたことはなかったけど、「いいから、いいから」とはかせてもらったジーンズは、想像以上に良かった。ヒップがセクシーなアメリカ人女性のために作られているからか、腰周りがゆったりしていて、裾にかけて美しいテーパードを描く。シルエットは、まるでデザイナーズものみたいで、抜群に品もあるのだ。

デザイナーズものといえば、カウボーイのための、元祖デザイナーズジーンズ、〈ラングラー〉もいいよなぁと思ってきた。お尻にちょこんと張られた塩ビパッチは、他にないデザインだし、どことなく品の良さがある。背中じゃなくて、お尻で品の良さをアピールできる気がする。そんな気持ちを見透かしたかのように内田さんが奥から出してきたのが、〈ラングラー〉のストレッチジーンズ。2000年代初頭まで作られていたもので、ブルーハワイのかき氷を連想させる、爽やかな色落ちをするそう。今の季節にもぴったりだ。思わぬ伏兵が2本続けて登場してしまい、あれだけ「505」と、決まっていた心も微妙に揺らぎ始める。

下北沢・渋谷近辺を攻めると、今度は『スパイク』で〈リーバイス®〉のブラックデニムを発見。全体的にまったりとしたフェード感が特徴だが、グレーに近い上品な色合いが、さらにグサグサと心を突き刺す。追い討ちをかけるように、〈UKリーバイス〉の薄いブルーにも気品を感じる始末……。しまいには、『テンポ』で見た〈RRL〉も気になってきた。ヴィンテージを題材に服作りをしてきた〈RRL〉が、今やヴィンテージとして売られる時代なのも面白いけど、掘れば掘るほど右に左に傾く男心に、我ながら笑ってしまった。

こんなふうに、ああでもないこうでもないと逡巡するのが、ヴィンテージ探しの醍醐味。しかも、うっかりしていると、もう一生出合えないかも、というスリルも楽しい。さて、肝心の一本はどれにしよう？「505」かなぁ……。

Early Summer To Do List 25-1

リーのレディ リーウエスターナーとリーバイス®のレディスジーンズ

レディスジーンズをデカばき。

ウエスト35インチ以上のビッグサイズならフツーにはける。左／'60年代の「レディ リー　ウエスターナー」は、生成りの色合いも品が良し。¥40,000（ジャンティーク☎03-5704-8188）　右／こう見えて、こちらもレディス。黒タグ・金刺繍のビッグE。粗い生地感で柔らかいはき心地も最高。¥12,000（ジャンティーク）

いい"ケツ"構えじゃない？

Early Summer To Do List 25-2

ラングラーの11MWZと11BZHX

カウボーイのためのデザイナーズジーンズ。

元は西部劇の衣装デザイナーだったロデオ・ベンが、カウボーイの意見を取り入れて作ったのが「11MWZ」。世界で初めて"ジーンズ"と呼ばれたデザイナーズジーンズである。ワークウェアじゃない。左／「11MWZ」¥100,000　右／ボーイズモデルの「11BZHX」¥53,704（ともにマービンズ☎03-5466-2390）

Early Summer To Do List 25-3

ラングラーのストレッチジーンズ

真夏こそストレッチジーンズの出番。

'90年代後半から2000年代頭くらいまで発売されていた〈ラングラー〉のストレッチジーンズ「9475TR」。「ストレッチは生地の目が粗く、オンスも薄いから真夏は驚くほど涼しい」と内田さん。ちなみにシルエットは、程よいスリム。ストレッチは、〈リーバイス®〉にもあるらしいので探してみよう！　¥7,000（ジャンティーク）

英国製って響きも品良し！

Early Summer To Do List 25-4

リーバイス®の891と505

レギュラー品も侮るなかれ。

左／こちらは〈UKリーバイス〉の「891」と呼ばれる品番。今はくと新鮮なスリムフィット。¥7,800（イルミネート☎03-5458-9211）　右／'90年代、古着屋の店頭に大量に並んでいた〈リーバイス®〉の後染めブラックジーンズ。「501」はよく見掛けるが、「505」はまあまあ少ない。¥7,900（スパイク☎03-6407-0123）

Early Summer To Do List 25-5

RRLのジーンズ

〈RRL〉は、もはやヴィンテージなのか？

1993年に始まった〈RRL〉は、ヴィンテージウェアからインスパイアされたブランド。こちらはブランド初期の一本で、すでに25年以上経過していることを考えるともはやヴィンテージと言っていいのかも。きれいなテーパードシルエットは「505」にも近い。ブラックジーンズもけっこういい。¥6,900（テンポ☎03-3321-0165）

photo: Kazuharu Igarashi　styling: Satoshi Kamei　text: Koji Toyoda

Early Summer To Do List 25-6

リーバイス®の'70年代の505

'70年代前半の「505」は、「501」の66前期と同じ時代のもの。裾が詰まったテーパード具合も品良く、アイビーリーガーも愛した。〈リーバイス®〉のデニムパンツ「505」¥40,000（ステップアヘッド 原宿店☎03-6379-4394） タブカラーシャツ¥22,000（ギ ローバー／ビームス 六本木ヒルズ☎03-5775-1623） デッドストックの〈ポロ スポーツ〉のキャップ¥7,000（オキドキ☎03-6407-8525） 壁にかけたベースボールシャツ¥7,500※税込み（チープスリル☎03-3335-0620） ボートモカシン¥22,000（ティンバーランド／ティンバーランド/VFジャパン☎0120-953-844）
その他は私物

なんとなくクラシックなベストが欲しい。

Early Summer To Do List 26

ステラ マッカートニー メンズウェアのベストカーディガン

Netflixでドラマ『フレンズ』を見返したら、ひょうきん者のチャンドラーが着ていた肩の落ちたベストカーディガンが新鮮に映った。大きいのを適当に着た感じがよかったのだ。〈ステラ マッカートニー メンズウェア〉で見つけたコットンヘンプ素材は元からビッグサイズ。柄は英国らしくアーガイルでクラシックだが、ブルーのトーンで不思議ともさくない。Tシャツにもシャカパンにも合うし、どことなく音楽の薫りまでする。レコ屋にでも行きますか。

ベストカーディガン¥67,000（ステラ マッカートニー メンズウェア／ステラ マッカートニー カスタマーサービス☎03-4579-6159）Tシャツ¥2,300（チャンピオン／ブロップス ストア☎03-3796-0960）ユーズドのナイロンパンツ¥18,000（シエスタ☎03-6804-3817）ユーズドのキャップ¥5,000（メモ☎03-3498-9100）ヴィンテージの〈セイコー〉のダイバーズウォッチ¥92,000（US HARAJUKU☎03-5772-6340）

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: HORI edit: Ryoko Iino

なんとなくクラシックなポロシャツも1枚。

POP-EYE 27 Fashion

Early Summer To Do List 27

フレッドペリー×ビームスのポロシャツ

今年のポロシャツは無地だと物足りない気がしていて、'90sなボーダーの晴れ晴れとした青いやつをどーんとでっかくいっときたい。しかもそれが〈フレッドペリー〉のだったら意外でしょ？　この〈ビームス〉別注は、'90年代のアーカイブの柄をビッグサイズで復刻したもの。かなり今どきなシルエットだが、思えば昔はこのサイズ感が普通。ある意味、超クラシックなアイテムってわけだ。ちなみに素材は吸汗速乾機能のある鹿の子で、着心地は最新。

ポロシャツ¥13,000（フレッドペリー×ビームス／BEAMS HARAJUKU ☎03-3470-3947）　ヴィンテージの〈リーバイス〉のコットンパンツ¥30,371（マービンス ☎03-5466-2390）　ユーズドのキャップ¥2,800（Shibuya "T" ☎03-3464-5188）

photo: Taro Hirayama　styling: Shinichi Sakagami
edit: Ryoko Iino

とある春のよく晴れた日に、道志川沿いのキャンプ場にて。テントサウナ2セット目が終わった段階で、演出なしにこの表情。初夏は周囲の緑も濃くなって最高だろうな。

Early Summer To Do List 28-3

フィンランドのテントサウナ

あ、どうもマグ万平です。

みんなととのってる？

産毛がそよそよしてる……。

photo: Kazuharu Igarashi text: POPEYE

プライベートサウナを楽しみ倒す！

POP-EYE 29 Outdoor

2. ストーブ点火。

火をつけてから入れるようになるまでは、およそ1時間。熱をキープするため、火の番も必要。テント内で座るためのベンチもあると便利。中はかなり暑くなるので木製のものが理想。薪もそれなりの勢いで減っていく。

今回のテント

サヴォッタ社のスモールテントサウナ

フィンランド軍のバックパックも製作するサヴォッタ社。こちらは4〜6人用。直径は250cmほどで、天井部はリップストップ素材、周囲は難燃性のコットンポリウレタン。テント本体の他、ストーブ、煙突、サウナストーン20kg、耐熱グローブがセットに。販売だけでなくレンタル（1泊2日、¥32,400※配送料別途）もあり、レンタルにはロウリュのためのバケット＆ラドルも付く。レンタルで試して、ハマって購入、という人も多いそう。¥270,000※ともに税込み（MIZU JAPAN☎03・6885・3615）

「みなさん、これがロウリュです」と蒸気を発生させたら、タオルをくるくるまわして熱波を皆に送っていく。この日のアロマは万平さんのフィンランド土産。香りと熱がテントを満たす。

入った瞬間は、真夏の屋外くらいの暑さだが、サウナストーンにアロマオイル入りの水をかけ蒸気を発生させると、一気に体感温度が上がる（このロウリュのときの水のはじける音がとてもいい）。万平さんのタオルさばきにより、熱が攪拌されると、いよいよ暑い。ヴィヒタで肌を叩くウィスキングも、香りと葉の触感がよく、人にやってもらうと気持ちよすぎて無言になるほど。上に熱がたまりやすいので、頭部を守るサウナハットがあると楽。

必要なものはけっこうある。

1. 薪ストーブはテントサウナの付属品。煙突は分解して収納可。**2.** 薪ストーブ専門店が作った「岩手の薪」。写真で25kgあり、外気温によるが今回は4〜5セット（2時間）くらいはいけた。送料＆代引き手数料別途で発送にも対応。¥2,500※税込み（ファイヤーワールド☎03・3616・2871） **3.** 一酸化炭素中毒には注意が必要。これは不完全燃焼をアラームで知らせてくれるチェッカー。**4.** 温度計。目安として。**5.** テントをパッキングした状態。**6.** 見た目以上に重いサウナストーン。**7.** 薪が大きな場合に割るための斧。**8.** ヴィヒタ。白樺の若い枝葉を束ねて乾燥させたもの。いかに気持ちいいかは左で説明。3束セットで¥6,200※税込み（スカイスパYOKOHAMA online shop☎045・453・2283） **9.** 耐熱グローブ。薪の補給時に。**10.** ラドル（柄杓）＆バケット（バケツ）。柄杓は持ち手の長いものでないと、ロウリュの際、やけどする恐れが。ヴィヒタと薪以外はだいたいAmazonで揃う。**11.** 水着とタオル、岩場を歩くサンダルに、肌寒いときのためのポンチョがあれば万全。

十分に温まったら、外へ。自然の水風呂を存分に楽しむ。川から出たら、必ず体を拭くこと。風を感じる肌の感度がものすごく変わる。その後、思い思いに過ごしている様子が前ページ。

設営から体験までを駆け足で！

1. 川沿いに場所を決め、テントを立てる。

キャンプ経験があれば設営は難しくない。本体は六角形。それぞれの角にポールを立てる位置を決めたら、センターポールで中心を上げ、周囲を調整していく。転倒しないようペグ打ちも念入りに。

Early Summer To Do List 30

モビバのバックパックサウナ

背負えるテントサウナもあるのだ。

POP-EYE 30 Outdoor

サイズはW170×D170×H247cm。総重量は12.8kgで、うちストーブが7.25kg。ストーブには収納袋もあり、すべてがこのバックパックにおさまる。低温高湿状態でゆっくり温まるスタイルのスチームサウナで、定員は2人。よく乾いた薪が必要というのは右ページのテントと同じ。¥88,000（ファイヤーサイド☎0120-46-7877）

いざ買おうと検討を始めると、右のフィンランドのテントの他に、〈モビバ〉というブランドのロシア製のテントがあることを知った。上のモデルとは違うが、個人輸入して使っているサウナキャンプさんによると「初心者には、モビバのほうが組み立てやすいし、気密性も高いので温まりやすく扱いやすいですよ」というではないか。

調べてみれば、全体的にいわゆるテントに近く、上のバックパックサウナは自立する分、設営も楽。ストーブは、サウナストーンを使わず、タンクに水を入れて蒸気を発生させる構造。右のページで紹介したロウリュはできないが、車が入れない場所でも楽しめる自由さがある。組み立ては慣れれば20分ほどだし、窓が付いているのはロシア製のこちらも同じ。ということで、あとは見た目と使い方次第。存分に悩んでほしい。

設営方法や手順など詳しいことは右ページに譲るとして、まずは指導者・マグ万平さんの話を少しだけ。本業は芸人さん。テラスハウスにも出ていたのでそれで知っている人もいるだろう。サウナが好きで「仕事でサウナに入れたら最高じゃん」と、笹塚『天空のアジトマルシンスパ』にて、タオル1枚で空気を攪拌し、お客さんに熱波を送る熱波師に。先日もフィンランドのサウナをまわる旅（通称・サ旅）に行ってきたばかりの、好きが高じまくっている人だ。

体験者3人への説明も手慣れたものので、「彼の地ではお産もサウナの中で行われていたことがあって。とても神聖な場所だったんです」とサウナの歴史講義が始まると、各種サウナハットをキャッキャと選んでいた3人も静かになって、耳を傾けている。窓からは自然光が差し込み、暖かくていい香りのするテントの中は、ただただ平和。ゆっくりおしゃべりをしながら、じわじわ汗をかく。「1セット目で体が〝開く〟。準備運動みたいなものですね。2セット目はもっと川の奥までいけるし、もっと外気浴が気持ちよくなる」という指導者の言葉どおり、川から出た3人は、いい表情をしていた。

街のサウナのように他のお客さんを気にすることなく、好きな音楽をかけられるし、ヴィヒタの葉が飛ぶのもかまわずパンパンとウィスキングできるし、男女でも入れるし、いわば、ものすごく手軽なプライベートサウナ。それが、組み立てて火をおこすだけでできるのだから、何をするにも気持ちのいいこの季節にこそ初体験を済ますべき、いや本当に。

体験できるイベントもあるよ！

『森、道、市場 2019』

今回、設営に協力してくれた「サウナキャンプ」の面々が出展するフェスがある。サカナクション主宰のカルチャープログラム「NF」とのコラボレーション企画で、会場の一部にテントサウナが現れるとか……。5月31日から6月2日まで、愛知県蒲郡市にて。

今回の場所

青野原野呂ロッジキャンプ場

キャンパーにはお馴染みの道志川沿い。都心からも近く、テントサウナにも理解がある。持参したタープやテント張りは無料。川のそばまで車の乗り入れができるのも楽だ。デイキャンプは大人500円、普通車1台500円。〇神奈川県相模原市緑区青野原931　☎042-787-1360

つなぎが着たい。

POP-EYE 31 Fashion

「つなぎ！」じゃなくて「つなぎ」というか、前のめりにならず、ごく当たり前に着られるモノがいい。

その点〈オーラリー〉のジャンプスーツは完璧。共地のシャツとパンツと言っても気づかないような、ここらしい品がある。超長綿の少し光沢のある生地で、パンツ部分はサイドアジャスター&ツータックのワイドシルエット。ショートスリーブっていうのも流石なさじ加減で、今の時季はカットソーパーカを袖から出してみる。それを着てどこへ行くかというと、いたって普通のところがいい。映画館とか。

Early Summer To Do List 31

オーラリーのジャンプスーツ

ジャンプスーツ¥58,000（オーラリー☎03-6427-7141） カットソーパーカ¥9,800（グッドウェア／メイン☎03-3264-3738） ユーズドの〈ナイキ〉の「ダンク」¥19,800（ダンジル☎042-720-8703） メガネ¥33,000（オリバー・ゴールドスミス／ブリンク ベース☎03-3401-2835） その他は私物

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: HORI edit: Ryoko Iino

あの人の欲しいもの、したいこと ②

想像を超えるものを求めて。

中嶋大介

『新しい古本屋』店主

なかじま・だいすけ｜1976年、京都府生まれ。著書に『アホアホ本エクスポ』『展覧会カタログ案内』『ワンコイン古着』。梶が谷で『新しい古本屋』を月1回ペースで運営している。

素人が作った漆の小物入れ

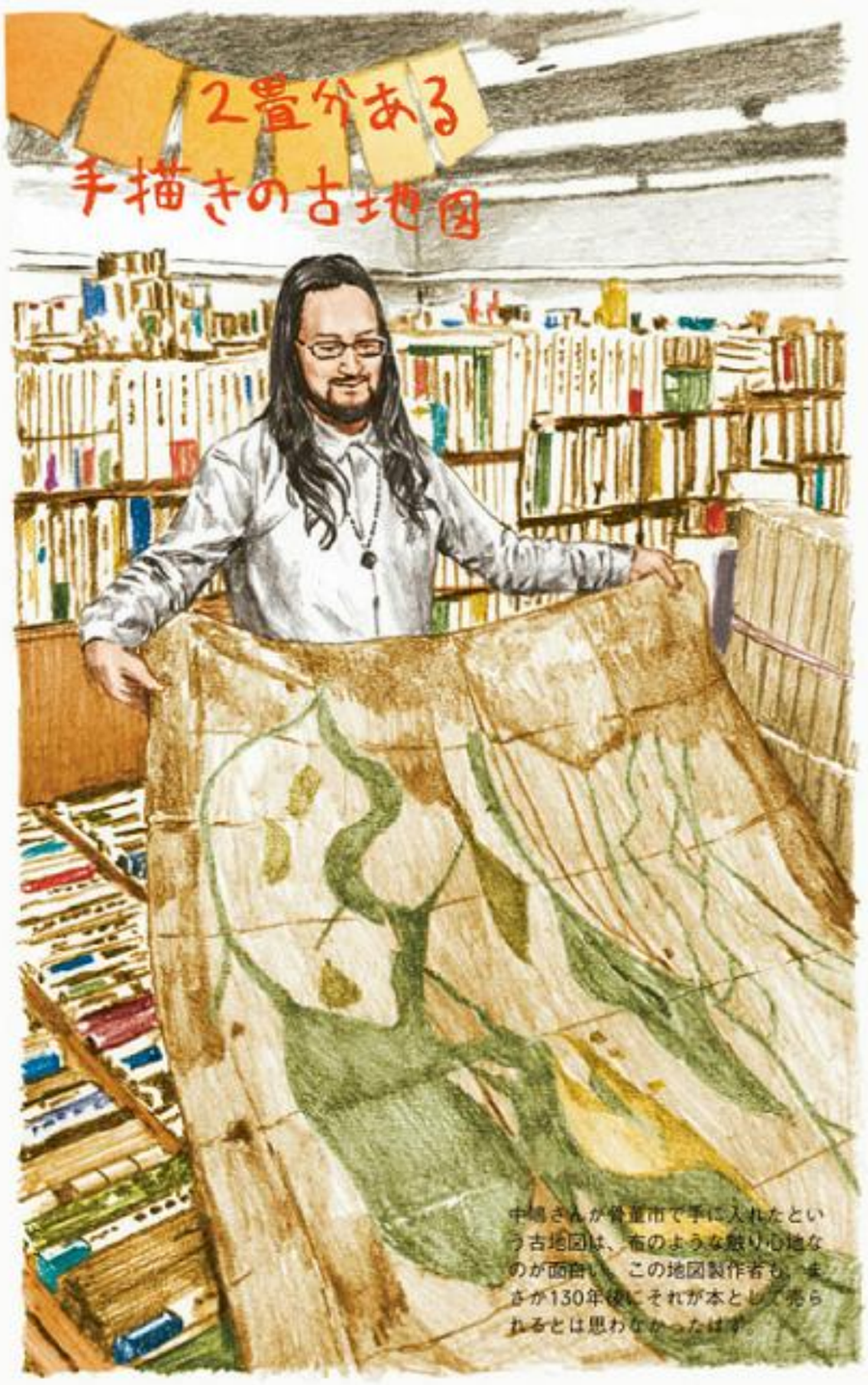
素人作だからなのか、ところどころ作りが下手だが、妙な味がある。

医学生の勉強ノート

牧歌的な筆致で描かれた人体の解剖図がかわいい。今で言うZINEか？

子供が作った謎の看板

かわいかったのだろうが、経年劣化でちょっぴり怖い仕上がりに。



2畳分ある手描きの古地図

中嶋さんが骨董市で手に入れたという古地図は、布のような肌ざわりの心地なのが面白い。この地図製作者も、まさか130年後にそれが本として売られるとは思わなかったはず。

こんな経験はないだろうか。はじめましての人を試しにネットで検索してみたら、SNSはおろか中学校の名簿的なやつにすらひっかからず、「もしかしてあの人、存在しないのでは？　幽霊だったのでは？」とえも言われぬ不安に襲われたなんてこと。そんな現代の幽霊を追い求める、一人の〝モダン・ゴーストハンター〟がいる。グラフィックデザイナーとして活動する傍ら、梶が谷にある自宅を開放してありとあらゆる〝本〟を売る『新しい古本屋』の店主でもある中嶋大介さんその人だ。

「5年前だったらこういうものが欲しいなっていうのがあったと思うんですよ。だけど、今は大概のものがネットで手に入る。手に入らなくても、そういうものがあるという情報自体は見つけられる。だから、欲しくて探しているものはなくなった感じがします。欲しいものがあるとすれば、自分がまだ見たことがなかったもの、〝こういうものってあるよね〟という想像を超えてくるもの、ということになるかもしれません」

これが中嶋さんをして〝モダン・ゴーストハンター〟と呼びたいゆえんである。それにしても、中嶋さんがこのような境地に至った理由は何だったのだろうか。ご自身の買い物遍歴から語ってもらった。

「もともとグラフィックデザインの仕事の資料として古本を買い始めたんです。だから、20年前くらいでしょうか。でも、そうするうちに古本それ自体の魅力に目覚めてしまって、どんどん買ううちに家の中が本の山になっていった。もともとコレクター体質なので。だけど、さっきも言ったように5年くらい前から、ネットの影響もあって古本集めへの興味がどんどん失せていってしまって。それと入れ替わるように、買い集め始めたのが古着でした。古着っていうのは、どこにでもある〈ユニクロ〉のTシャツとかでも、それをネットで検索して買うのって意外と難しいんですよ。本だったらタイトルがあって、著者がいて、奥付には何年何月何日に発売されたということが記されている。だから、検索にひっかかりやすいけど、古着にはそれがないので。古着屋の抽象的な商品タグにもそれは表れていると思うんですけど。なんかそこが僕には面白く感じられたんですよ」

中嶋さんによるニッチとも言える古着の面白がり方は、『ワンコイン古着』という著書へと結実している（名著！）。今は古着への熱は一段落したという中嶋さんだが、それとまたクロスオーバーするようにしてふつふつと湧き上がってきたのが、本への熱だという。

「それは本というものの定義をもっと広く見てみればまだ可能性があるんじゃないかと思い始めたから。つまり、製本されて背表紙があるようなものに限らず、『紙の印刷物ならすべて本だ』という感じに。わかりやすいところでは、写真アルバムとか絵葉書とか。実際、そういう流通しづらい紙のものまで売ろうと考えて始めたのが『新しい古本屋』でした」

たしかに、『新しい古本屋』の店内（リビング？）には、ありとあらゆる紙のものが魑魅魍魎のごとくうごめく。なかには、子供が落書きして作った謎の看板まで。つまり、これもすべて〝本〟ということなのか。

「製本された本ってものすごく流通しやすいものだと思うんですよ。Amazonが最初に本をやったのも、おそらく通販に一番向いている商材だったからだと僕は思います。古本の場合、状態とかで多少はあるかもしれませんが、買う人のイメージを大きく裏切ることってほとんどないですから。そういう流通しやすいものを売ることは、僕にとってあんまり意味のあることには思えないし、喜びが感じられないんですよ。そうじゃないいろんな捉え方ができるということを、いろんな人に知ってほしいと思ってこのお店を始めたんです」

なんだか「欲しいもの」ではなく「売りたいもの」の話になっている気もするが、話はそう単純ではない。なぜなら、『新しい古本屋』の商品はすべて中嶋さんが欲しくて買ったものばかりだからだ。実際、中嶋さんは「本当は売りたくないけど、そうしないと溜まる一方だから」と漏らす。これで中嶋さんが〝モダン・ゴーストハンター〟の道を歩むことになった経緯は了解いただけたことだろうが、では、「自分がまだ見たことがなかったもの、想像を超えるもの」ってどんなものなのか。かつてそのような感慨を抱いて買うに至ったものを教えてもらった。

「例えば、2週間前くらいに見つけた江戸時代の信州あたりの古地図はそうでした。畳2畳分くらいの大きさがありますが、触ってみると紙質がとてもよくて買いました。あるいは、大正時代の医学を学んでいた学生か何かのノート。これは人体のスケッチのタッチがいいんですよね。あとは、素人が作った漆の小物入れみたいなものも買ったことがあります。プロが作るとどうしても需要と供給を考えてしまうけれど、素人が作るものはそこを度外視しているのが面白いので、惹かれることがよくあります。これも写真が入っているので、僕の中では印刷物、つまり本のひとつなんです。これらはすべて欲しいと思ったことなんて一度もなかったもの、だけど、〝こんなものがあるのか〟と驚いて買ったものです」

そんな中嶋さんが今したいこと。それは『新しい古本屋』の古書目録を作ることだという。

「古書目録っていうのは、その古本屋にどんな在庫があって、どのくらいの値段であるかを記したカタログです。さっきも言ったように、僕はコレクターとして集めてきたものを、本当は売りたくないけど売っている。だけど、それでは商売上よろしくない。そういうコレクターとの決別という意味でも、作りたいなと。載せちゃえば売るしかないので。そうやって売っていけば、今とはまた違う領域で欲しいものも出てくるかもしれないですしね」

illustration: Shinji Abe　text: Keisuke Kagiwada

ドラマを〝ビンジ・ウォッチング〟する空間を整えたい。

Early Summer To Do List 33

ポップインアラジンのプロジェクター付きライト

Early Summer To Do List 32

ザノッタのサッコ

もう1話だけ、見ちゃうか。

ZZZ…

うつ伏せ

抱きまくら風

あぐら

座り方いろいろ!

イタリアンモダンを率いてきた「ザノッタ」のシグネチャー的アイテム「サッコ」は、デザインがいけているのはもちろん、いろんな座り方ができるマルチタレント。あぐら、うつ伏せ、抱きまくら。ポップコーンでも食べながら、ビンジ・ウォッチングするのにうってつけ。¥67,800(ザノッタ/エスティック フォルマックス 表参道☎03・5786・2556)

POP-EYE 32 Interior

〝ビンジ・ウォッチング〟、すなわちドラマの全話イッキ見は、NetflixやらAmazonプライム・ビデオやら、いわゆるSVOD(定額動画配信サービス)が日常にすっかり浸透したこのご時世、やってないほうが少数派な、「今さら何を?」的な行為かもしれない。そこで考えたいのが、その行為をさらにワンランク上げるためにはどうすべきかってこと。

まず確実に必要なのは、座り心地のいい椅子である。長時間にわたって座っていても疲れないのはもちろんのこと、部屋に置いても絵になるってことが重要になってくる。機能性のみを重視すればすぐに見つかりそうだけれども、それだけじゃ駄目なのがシティボーイ(の憂鬱)なわけで、デザイン的にも具合のいいやつじゃなきゃ欲しくない。

そんなこんなを鑑みつつ探していたら、ありましたよ、ちょうどいいやつが。1954年にイタリアで創業した由緒正しき家具メーカー「ザノッタ」の「サッコ」ってのがそれ。1968年に発表された「固定された形態を持たず、使う人の体に合わせて変形する」ってのがコンセプトで、中にはポリスチレンペレットが詰め込まれている。いわゆる形態安定系ビーズクッションの元祖らしい。

で、肝心な座り心地はどうかというと、シャツでもトラウザーズでもいいんだけど、「あ、これは何かしっくりくるぞ」ってことがあるでしょ? 「サッコ」は、まさにそんな感じ。普通に座っても、抱きまくら的に使っても、うつ伏せでも、どうしてなかなかしっくりくる。最終的にそのまま寝ちゃうのも全然あり。

生地の色はバリエーション豊かに選べるんだけど、今の気分は赤かな。近未来SF的な雰囲気があるし、たしか、「時計じかけのオレンジ」にこんな色のクッションが出てきた気もするし。ここまで環境を整えたんだから、逆にこの部屋に合うような

photo: Kazuharu Igarashi styling: Yusuke Takeuchi
illustration: Minoru Tanibata text: Keisuke Kagiwada

『ウィアード・シティ』が面白そうだ。

POP-EYE 34 Culture

キャストが豪華。

マイケル・セラ、ジリアン・ジェイコブス、アウクワフィナ……。さすが、ジョーダン、『ウィアード・シティ』はキャストの具合がいい。役者だけを目当てに観ても楽しめる。

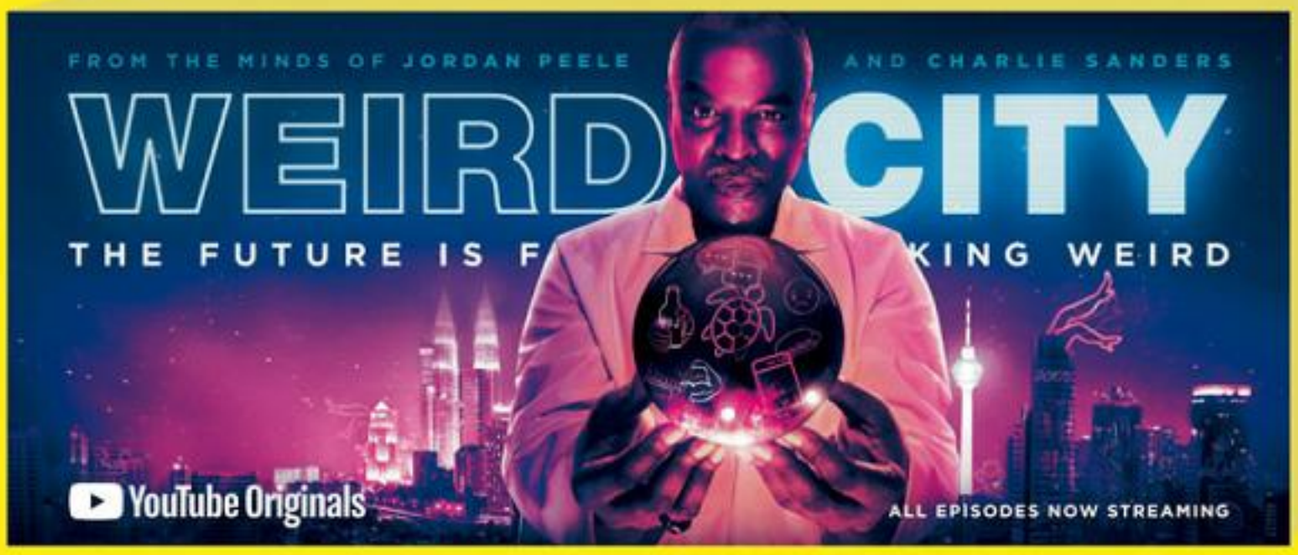
©Getty

クリエイターはジョーダン・ピール。

10代の頃から、コメディアンとして活動してきたジョーダン。2017年に『ゲット・アウト』を監督し、クリエイターとしても頭角を現した。監督最新作『アス』も待ち遠しい。

さて、これで最高のビンジ・ウォッチング空間は整った。しかし、肝心の「何を観るか?」がまだ決まってない。NetflixかAmazonプライム・ビデオか。と、いろいろリサーチしていたら、YouTubeでもオリジナルドラマが配信されているではないか。なかでも興味をそそられたのは、『ウィアード・シティ』。『ブラック・クランズマン』を製作し、監督作『アス』の公開が控える、ジョーダン・ピールが製作総指揮を務めたSFコメディだ。近未来の都市、ウィアード・シティを舞台に、出会い系アプリやらスマートホームといった現代にも通じるアレコレを通して、ちょっと間の抜けた人間たちの物語が、ジョーダンらしいユーモアとペーソスでもって綴られる。最先端のビンジ・ウォッチング空間で観るには、うってつけの新感覚な作品だ。

まさに群雄割拠と言うべき様相を呈しているSVOD界で、さらに気にしておきたいニューフェイス、YouTube Originals。これじゃどれだけ時間があっても足りないな。



Early Summer To Do List 34

YouTube Originalsのウィアード・シティ

憧れのプロジェクターは照明とガッチャンコ。

YouTubeはもちろん、Netflix、Amazonプライム・ビデオもすぐ視聴できる。内蔵された"美風景"を映すことも可。¥79,800（ポップインアラジン☎0120-05-5263）

POP-EYE 33 Interior

というわけで、見つけたのが世界初のプロジェクター付きシーリングライト「popIn Aladdin」。ずっとプロジェクターが欲しいとは思っていたけれど、設置する場所がないから諦めていた。だけども、こいつは部屋の照明とガッチャンコできる、一石二鳥なやつなのだ。おまけに、高音質のスピーカーも内蔵されているのもいい。あとは壁さえあれば（スクリーンだとなおよい）、動画系アプリを開けば、これ以上ないグレイトフルな環境でドラマや映画を観ることができるってわけだ。これはヤバい。もし憂慮すべきことがあるとすれば、これと「サッコ」がセットになったら、いよいよスクリーンの前から離れられなくなるってことだよなぁ。

SFドラマを観るって選択肢もありうるかもしれない。

とはいえ、椅子だけじゃまだ序の口もいいところ。さらにビンジ・ウォッチングに最適化した部屋に必要なものを探してみよう。

ガーナの映画ポスターが気になる。

デカくて、手描きで、なにしろタッチのクセが強い！　まるでアウトサイダー・アートのようなこれ、すべてガーナの映画ポスターなんだとか。シカゴにあるその専門店『Deadly Prey Gallery』のブライアン・チャンキンは、「見た瞬間、開いた口が塞がらないくらい衝撃を受けたよ」と語るが、さもありなんだ。

もともと『Odd Obsession Movies』というビデオ屋をしていたブライアンは2009年に発行されたガーナの映画ポスター集『Ghanavision』でその存在を知り、一目惚れ。ビデオ屋に飾っていたら、「欲しい！」という声が相次ぎ、販売を決意……したはいいものの、仕入れルートがわからない。グーグルで血眼になって「ガーナ　映画　ポスター」と検索し、ようやく現地のアーティストと接触できたそう。現在は、'90年代のものをアーカイブするのと並行して、コミッションプロジェクト（顧客からの注文を受けて、ポスターの制作を発注する）もしている。『チャイルド・プレイ』のやつなんかめちゃくちゃ欲しい！　問題は、このサイズ感だとどこに飾るかである。

ガーナ人アーティストが一枚一枚手描き。

『Deadly Prey Gallery』でコミッションプロジェクトをしているアーティストたちは、みんな'90年代から活躍しているベテランらしい。

購入は『Deadly Prey Gallery』で。

Deadly Prey Gallery

販売はオンラインのみ。brian@deadlypreygallery.comにメールを送ると、ブライアンが値段や寸法を丁寧に教えてくれる。安いもので350ドルくらい。レアものは2000ドル超。

Tシャツもあるよ！

さすがにデカすぎるポスターはこれからの目標にして、とりあえずTシャツから入るっていうのも悪くない。こちらは『スピーシーズ』デザイン。まあまあグロい。30ドル。

ブライアンはガーナのポスターの魅力を「異文化の融合」だと語る。「アメリカ映画が、異なる文化圏でどのように認識され、どう解釈されているのかを、ガーナ映画のポスターのアートワークから読み取ることができるんだ」。物語の主要部分ではなくても、派手なアクションシーンが描かれることも特徴なんだとか。ちなみに、ブライアンが一番好きなポスターは『Wonderful Dog』という作品のものらしい。

text: Keisuke Kagiwada　cooperation: Hiroko Yabuki

GAPのクラシックを探しに。

POP-EYE 37 Fashion

Early Summer To Do List 37-1

古着のギャップのTシャツ

Early Summer To Do List 37-2

ギャップのチノショーツ

子供の頃から変わらず馴染みのあるブランドはあまりないが、〈ギャップ〉は特別。この前古着屋で見つけたTシャツ（おそらく'90s）のオールドロゴは、「WORLD CLASSIC」と堂々謳うとおり、今もクール。やっぱりいいなあと、店へ行くと、なんか、懐かしい。聞けば、創業50周年。オーセンティックなアイテムが原点回帰して、チノもすとんとワイドなものが並んでいる。このショーツだってご覧のとおり、ストレートで特別なところは何もなく、それがかえってスペシャルに嬉しい。〈ギャップ〉よ、永遠に！

ショーツ￥5,900（ギャップ／ギャップ新宿フラッグス店☎03-5360-7800） ユーズドの〈GAP〉のTシャツ￥7,900（BUD VINTAGE CLOTHING☎03-3401-7246） ラインソックス￥1,400（TCK／サンタモニカ 渋谷店☎03-3462-1984） シューズ『ワラビー』￥23,000（クラークス渋谷☎03-3780-4810） ユーズドのバックパック￥7,800（ベルベルジン☎03-3401-4666） '40sヴィンテージのイギリス軍ミリタリーウォッチ「Mark X」￥900,000（IWC／ワンミニッツギャラリー☎03-3478-2874）

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: Yoshikazu Miyamoto edit: Ryoko Iino

気軽にワイドスプレッドカラーシャツ。

POP-EYE 38 Fashion

半袖シャツの季節がもうすぐやってくる。ただ、気温に関係なく少しちゃんとして見える格好をしなければいけない日もある。シャツとはいえ、いつもの半袖BDではカジュアルがすぎる？〈ポロラルフローレン〉のシャツは、ショートスリーブな上に素材もポロシャツのようなコットンメッシュ地。着心地は快適この上ないが、襟型はしっかりワイドスプレッドカラー。ニットタイもよく似合い、ショーツと合わせたってきちんとして見える。やっぱり男は首元ってやつだ。

Early Summer To Do List 38

ポロ ラルフ ローレンのシャツ

ショートスリーブシャツ¥18,000（ポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン☎0120-3274-20）　イージーチノショーツ¥3,500（エリック ハンター／メイデン・カンパニー☎03-5410-9777）　ニットタイ¥13,000（ベントレー グラバッツ／メイン☎03-3264-3738）　ユーズドのキャップ¥2,800（Shibuya "T"☎03-3464-5177）　ラインソックス¥1,400（TCK／サンタモニカ渋谷店☎03-3462-1984）　ユーズドの〈クラークス〉のシューズ「ワラビー」¥9,800（リオール☎03-6434-6802）

photo: Taro Hirayama　styling: Shinichi Sakagami　edit: Ryoko Iino

ガブガブ飲めるワインを買っておく。

POP-EYE 39 Food

なぜか皆で集まるとワインがすごい勢いで減っていく。飲みやすいナチュラルワインならなおさらで、前々からお店で飲むことは多かったけど、選ぶとなるとどこがいいのか。保管は冷蔵庫でいいのか、そもそも買い置きできるのか。

ワイン好きへの聞き込みから挙がった、ここで買えば間違いないという2軒に扱い方の基本を聞き、ガブガブ系ワインもすすめてもらおうというのがこの企画だ。

「渋さや酸っぱさで出はなを挫かれぬよう、ナチュラルワインのフレッシュさと、ぶどうの味が感じられるストレートなものを選びました」とは、梅ヶ丘『リカーランド なかます』のオーナー、沼田利也さん。ナチュラルワインの生産者は小さなところが多く、丁寧に造られるがゆえに量が限られる。「造り手の思いを伝えるのが私たちの役目。例えば真ん中のワインは仲の良いインポーターへの友情の証しとして造られたんです」と聞けば、親しみもわく。

一方『味の好みは人それぞれなので、まずは3回通って好みが合うか確認してほしい』とは、下馬『野崎商店』の店主、野崎淳さん。同じものが常にあるとは限らないのだから、好みを知ってもらえるとたしかに話は早い。そして最終的には「楽しくておいしいのが一番」とも。そう、楽しい場もナチュラルワインも一期一会。気に入ったら、売り切れる前にまた買いに行こう。

右からシナチュール2015￥1,978（フランス／アルザス地方）、ヴィンククール・ルージュ2017￥2,155（フランス／ロワール地方）、キュヴ G 2017￥2,078（フランス／ラングドック地方）

右からイル・ファルネート2017￥1,900（イタリア／エミリア・ロマーニャ地方）、プルリオ2016￥2,850（スペイン／アンダルシア地方）、レ・フルール・スーリエ2017￥3,000（フランス／ラングドック地方）

左／若手兄弟が造る、赤にとても近いロゼ。酸味とジューシーな果実味のバランスがとってもしっかりしていて、香り高く少し高貴な印象。中／もともとオリーブや果樹を育ててきた造り手のもの。いろんな種類のブドウが使われていて、野性的な混ぜ混ぜ感がクセになる。時間をおいて味の変化も楽しめる一本。右／「困ったときの泡頼み」とは野崎さんの弁だが、イタリアから来たこちらは青リンゴのような風味が残り、辛口でキレキレな飲みやすさ。

好きな味だったワインの写真があれば確実です。

野崎商店

2003年からナチュラルワインを取り扱う。価格帯も幅広く、下は1500円くらいから。「飲む1週間前から立てておくと味が安定します。気温差の少ない10℃前後の時季なら外に置いても」〇東京都世田谷区下馬1-22-13 ☎なし 15:00〜22:00 木、第2水、第3日休

グラスは小ぶりで。

POP-EYE 40 Food

高さは12.5㎝と、テイスティンググラスに近い。￥1,900（craft_one http://shop.craftcraft.net/）

瓶ビールを小さなグラスで飲むとやけにおいしいように、ワインも小ぶりなもので。と、言い切りたいのは、このアルネ・ヤコブセンがデザインしたグラスを知ったから。

スワンチェア他、名作の由来に事欠かないデンマークのラディソンSASロイヤルホテルのために作られたもので、この白ワイン用グラスは〝らしい〟フォルムもサイズも絶妙。もちろんこれでビールを飲んでも。

好みの造り手と出会うと世界が広がります。

リカーランド なかます

梅ヶ丘駅南口より徒歩1分。ボトルひとつひとつに丁寧な説明が入っているので、初めてでも安心。「ワインは生き物です。保管は15℃以下の暗い場所で。夏は保冷バッグをご持参ください」〇東京都世田谷区梅丘1-23-7 ☎03-3420-5506 12:00〜21:00 木休

左／ミディアム・ボディなのに柔らかい飲み心地。サン・スフル（酸化防止剤完全無添加）なので保管に注意。中／ハートとお尻のマークが特徴。クセのない赤は、初めての人にも。右／1ℓのグイグイ系白ワイン。丈夫なので一日で飲みきらずともOK。

レコードのように額を掘りたい。

POP-EYE 41 Interior

久しぶりに『ジャンティーク』の前を通ったら、お店の前に額がたくさん入ったカゴが海外のマーケットのように置いてあった。インドの刺繍が施されたものや、アメリカの家に飾ってありそうなザ・フォトフレーム、そして裏の留め具までを手作りしたものなど、その種類は豊富。好奇心から、どんどん次のフレームを持ち上げていると、あれ、この動作どこかで……あ、レコード屋だ。小さな額だからなせる業だが、次を持ち上げるワクワク感と手の動きがまさにシンクロ。それに、何かを飾りたくて探すのではなくて、額を見て、何を入れようか中身を想像しながら掘るのもレコードのジャケ買いに似ている。そういえば、まだ額に入れてない絵やポストカードがあった！　っていう、思い出し効果も。

JANTIQUES

中目黒を代表する古着店。額は2005年のオープン当時より扱っていて、3～4か月の頻度で新しいものが入荷するそう。店先には上の写真にあるような小さなものを中心に、店内にはA3サイズくらいのものもある。ほとんどの額にはガラスが付いているので、買ったらすぐに使える。〇東京都目黒区上目黒2-25-13　☎03・5704・8188　12:00～21:00　年末年始休

大きなものが欲しいなら。

POP-EYE 42 Interior

額が大きければ、その分、何を入れようかと夢も膨らむ。古くて大きなものはないかと探すも出合いがなく、諦めかけたときに、千駄ヶ谷『セローテアンティークス』の地下3階で発見した。数は多くはないものの、1920～'80年代のユニークな額は、彫りや古い木材自体の質感も格好よく、枠しか残っていないものも頼めば費用別途でガラスを入れてくれる。直に額だけを床置きしてある感じも、なんだか様になるってことにも、ここに来て気づき、大きな家があったら……と、また夢が膨らんだ次第。

CEROTE ANTIQUES TOKYO

地下3階までアンティークがギッシリ。買い付けはヨーロッパが中心で、ほとんどの額はヴィンテージ。サイズによるが半畳くらいのサイズでも1万～2万5000円ほど。〇東京都渋谷区千駄ヶ谷2-10-2 グランコート千駄ヶ谷1F-B3　☎03・5786・3115　12:00～20:00　不定休

photo: Kazuharu Igarashi　text: Mayumi Yamase　cooperation: Yusuke Takeuchi

なぜ韓国のものに惹かれるのかを探りに。

POP-EYE 43 Travel

Early Summer To Do List 43-1

キム・ヘジョンの茶碗

江藤公昭

『パピエラボ』店主

えとう・きみあき｜1977年、福岡県生まれ。「ランドスケープ プロダクツ」を経て、2007年に仲間と一緒に「パピエラボ」をオープン。韓国への旅は今回で通算8度目。

キム・ヘジョンさんのスタジオに行く前に作品をおさらいしに行ったのは、韓国のあらゆる作家ものを扱う店「シキジャン」（P91にショップデータを掲載）。彼女の作品は、大体ここで買える。江藤さんが手にしているのは、ニューシリーズの茶碗。140,000ウォン

photo: Naoki Honjo text: Kimiaki Eto edit: Koji Toyoda
coordination: Kim Sulang

「何か欲しいものはありますか？」という連絡があって真っ先に思いついたのが韓国のものだった。以前から韓国に行っては食器などの日用品からオブジェのようなものまで、そのときの気分で買い集めていて、日本でも骨董屋で家具や陶器などを手に入れているうちに、だんだんと韓国のものが増えてきた。

例えばアメリカで買った食器などは、気に入っていても、なかなか普段の生活に馴染みづらく、結局は鑑賞の対象となってしまうことが多い。それに比べて韓国のものは、美術作品のように使いづらそうなものでも、ラーメンをも許容してくれるような懐の深さを感じる。美しいのに使いやすい。今回、そんな韓国のものに惹かれる理由を解明すべく、気になる作家や店を訪ねてみた。

＊＊＊

と、まずは僕が誰なのかを簡単に。僕は神宮前の外れで『パピエラボ』という「紙と紙にまつわるもの」をコンセプトにした小さな店を営んでいる。さぞかし紙好きなのだろうと思われがちだが、実はそうでもない（笑）。もちろん紙は好きな素材であるけれど、それと同じくらい土や木、金属にも興味はある。とまあ、そんな曖昧なこだわりで店をやっているのだが、そのおかげでたくさんの面白い人たちと一緒に仕事をすることができている。その中のひとりが、10年前にふらっと店にやってきたキム・スランさんという女性だ。話を聞けば、どうやら彼女もソウルでお店をやっているとのこと。文具以外にも、音楽やアートなどの共通言語が多く、韓国という国にも興味がわいてきた。すぐさまスランさんのお店『OVAL』で展示をするという約束を取り付けて、韓国へ渡った。『パピエラボ』のメンバーと一緒に行った初めての海外ツアーということで浮足立っていたことは否定できないが、スランさんが案内をしてくれたところは、やはり僕好みのものが多く、ついつい散財してしまった。

そのひとつが、この陶芸家、キム・ヘジョンさんの作品だった。彼女の器の魅力は、なんといっても圧倒的な造形美と絶妙な色合いだと思う。美術品のような美しさがある一方で、使ってみると包容力のある優しい器になる。そんなヘジョンさんの新作があることを知ると、どうしてもその話を聞いてみたくなり、今回は工房まで訪問させてもらった。見せてもらった新作は、網の目が押し付けられていて、変形したりちぎれていたり、かなりの〝違和感〟がある。ネットで写真を見ている限りでは、美しいことと醜いこと、使えることと使えないことの曖昧さを表現したのだろうなと、勝手に思っていたものの、実はもっと深いメッセージが込められているとわかった。2011年に起こった東日本大震災が創作活動に影響を与えたこと、アフリカの部族たちの漁にまつわる話など、この手法ができるまでの思考のプロセスを本人の口から聞いていると、単純な見た目ではなく、もっと深いところから魅力が醸し出されていることに気づく。〝違和感〟に美しさを感じるのは、ヘジョンさんの優しさが含まれているからだとも。そして、この自然に滲み出た優しさこそが、僕が惹かれる韓国の美しさを成すもののひとつかもしれない、と彼女に教えてもらったような気がした。

※1ウォン＝約0.1円（4月17日現在）

網を押し付けた陶器。

ヘジョンさんの最近の作風を代表するのが、こちらのシリーズ。陶器のどこかに、何かの記憶の痕のように網を押し付けたデザインが施されるのだが、もちろん食器としても使えるが、ただ眺めていたくなる楽しさがある。こちらのお皿は、江藤さんもすかさず購入していた。皿150,000ウォン、椀130,000ウォン

ヘジョンさんの作品には顔もある。

こちらは「aspect (s)」シリーズ。アスペクツとは英語で"面々"という意味。ヘジョンさんも通称・顔シリーズと呼ぶだけあって、眺める角度によっていろんな表情を見せる。まるで陶器に人格が備わったかのごとく、右のものは細面の人で、左のものは丸顔の人みたいに思えてくる。花瓶は160,000ウォン〜

キム・ヘジョン

陶芸家

東京都生まれ。韓国の大学で陶芸を学び、東京藝術大学の大学院で博士号取得後に渡英。約7年間、イギリスを拠点に活動し、現在はソウル郊外にスタジオを構える。作品は『ブレイマウンテン』や『チンジュカンボタリー喫茶室』などで見ることができる。

実用的な食器たち。

飾って美しいものばかりではなく、実用的なものももちろんある。左は『シキジャン』で見つけた淡い緑色をまとった深皿。海辺の貝殻のように微妙にねじ曲がったフォルムもいい。右は、ヘジョンさんの工房に置かれていた大小様々なカップや器。優しさのある白さに心惹かれる。皿140,000ウォン、カップ50,000ウォン〜

ソウル大学の研究室へ。ハン・ジョンヨン先生に会いに。

POP-EYE 44 Travel

今回の旅でもう一人、会いたかったのが、ハン・ジョンヨン先生という陶芸家だ。その理由は、前ページ文中のスランさんがオススメしてくれたからという他人任せなものなのだが、彼女にはこれまでに、団扇や風などの紙にまつわる韓国の作家のものを紹介してもらってきたという経緯がある。どれも僕自身も気に入っているものであり、彼女の〝オススメ〟ということであれば間違いないだろう。

市内中心部から約1時間。ソウル大学内にあるジョンヨン先生のスタジオに到着して目に入ってきた作品の数々はまさしく僕好み。李朝や高麗磁器のような朝鮮ものの流れを感じさせるほんのり青みがかった白さや、形の美しいラインに、すぐさま惚れ惚れしてしまった。どこかに緊張感を持ったシャープなラインが、徐々にゆるやかになっていき、面に溶け込むような流れを見ていると、好きなイラストレーターが描く線を見ているときに似た心地よさがある。さらに白という色についても考えさせられることがあった。紙を扱ううえで、やはり〝白〟には敏感にならざるを得ないのだが、ジョンヨン先生の研究室には、土と釉薬の掛け合わせを徹底的に検証した膨大なサンプルがあり、彼の〝白〟はこの膨大な色の試行錯誤の積み重ねから生まれたものかと考えると、クラクラしてしまったのだ。もはや「色」という言葉を使うことすら躊躇するほどに奥深い。帰国してからは、毎晩、先生の徳利でお酒を飲みながら韓国らしい〝白〟を噛みしめている。しかし、本当に美しいものだなぁ。

Early Summer To Do List 44-1

ハン・ジョンヨンの花瓶、徳利、ペン立て

ハン・ジョンヨン先生は、"ペッチャ"と呼ばれる青みがかった白を特徴とする。江陵さんが文中で触れた徳利は真ん中のもので、ペン立ても買っていた。花瓶の柔らかい曲線も美しい。左から花瓶800,000ウォン、徳利150,000ウォン、ペン立て120,000ウォン

ちなみに"ペッチャ"という言葉は韓国語で"光"を意味するものらしい。対して、こちらの黒は"夜"だとも。韓国の人はジョンヨン先生が作る黒い陶器も好きみたいで、ソウル大学に同行したスランさんは、迷わず購入していた。こちらはお碗。150,000ウォン

ハン・ジョンヨン

陶芸家

1976年、ソウル生まれ。2005年に陶芸家としてキャリアをスタート。以来、数々のエキシビションを開催し、現在は韓国の最高学府、ソウル大学の芸術学部にて陶芸を教える。落ち着いた人柄のあらわれか、授業の合間を縫って手掛ける陶器にも包容力がある。

Early Summer To Do List 44-5

一輪挿し

凛とした雰囲気を持った一輪挿し。マットな質感も手触りがよく、せっかくだから韓国の国花、ムクゲの花などを挿したくなる。高さは20cmほど。150,000ウォン

Early Summer To Do List 44-3

惣菜入れ

今回訪れたのは研究室だけあって、先生の作品を扱う『シキジャン』では見かけないものもちらほら。惣菜入れとか。130,000ウォン

Early Summer To Do List 44-2

お碗

Early Summer To Do List 44-4

小物ケース

こちらの小物ケースに入っていたのは、先生の大好物であり、韓国名物のフルートキャンディ。作品と同じように使い方にもジョンヨン先生独特の品を感じる。45,000ウォン

ソウルの相棒、キム・スラン。

POP-EYE 46 Travel

OVAL

ソウルの下北沢こと、弘大地区にある店では、〈ポスタルコ〉や〈パピエラボ〉のアイテムも扱う。もっとも力を注ぐのは、ヴィンテージの鉛筆で、1920年代のものをはじめ、博物館級の品揃え。○ソウル特別市麻浦区臥牛山路48ギル29　13:00〜20:00　月〜水休

植物館PH

ソウル中心部から約1時間のところにある植物館。スランさんは、鉢のセレクトからショップカードのデザインまで、ディレクション。彼女がデザインしたバッグもあり、それはP91に。○ソウル特別市江南区廣平路34ギル24　9:00〜21:00　月休

今回の取材をコーディネートしてくれたキム・スランさんは、アートディレクター、デザイナーとして活動する傍ら、『OVAL』という文房具店も運営している。この店は、決して整然としているわけではないが、無造作に置かれた紙切れ一枚にも、彼女のセンスが滲み出ていて、どこを切り取っても絵になる美しさがある。商品に韓国ものはないが、どことなく韓国らしい美意識を感じるのは、そこをよく理解しているスランさんのセンスが隅々にまで行き届いているからだろう。実際、取材の最中でも、「ご褒美」と言いながら誰よりも物を買っていた姿を見ていると、このセンスが生まれた理由が少しわかったような気がする。今回の韓国取材で、これまでよりも一歩深く、韓国ものに触れられたのも彼女のおかげで、見た目の美しさの奥に潜む本質をほんの少しだけ理解できたような気がした。カムサハムニダ！

スラン！

リソグラフの色も美しい。

POP-EYE 45 Travel

Corners

文房具メーカーで働いていたオーナー2人がリソグラフの美しさを布教するべく2012年に始めた印刷所。ジンやポスターを作るときは皆ここに持ち込むほどアーティストの信頼も厚い。○ソウル特別市中区スピョロ66 2F　10:00〜18:00　土・日・祝休

「Corners」に入るなり、江藤さんが「スゴい！」を連発していたのが、デジタル印刷機「RISO A2」。日本にリソグラフの印刷所はちらほらあれど、A2サイズのプリンターを置いてるところはまずないとか。その幻のマシンで作られた商品は、印刷所脇に併設された小さなショップでも売られている。江藤さんはギリギリまで、下写真・左端のリーフ柄のウォールペーパーを買うか悩んでいた。

この流れだと、ただの器好きの人になってしまうところだが、きちんと紙や印刷のことも気に留めてはいる。前号の『ポパイ』にも載っていたが、武蔵小山に「Hand Saw Press」というリソグラフのスタジオがある。リソグラフというのは「RISO」製のコピー機でシルクスクリーン印刷のような表現をするという、簡易的な印刷方法で、世界中で人気が出てきている。僕もたまにこの店を利用するのだが、そこで雑談をしているときに、韓国には『Corners』というセンスのよさそうなリソグラフのスタジオがあるよ！　と教えてもらったことがある。

ならば、このタイミングで行かない選択肢はないと訪ねてみたのだが、なんとまあ綺麗に整理整頓されていることか！　僕の勝手な基準だが、信頼できる印刷所のポイントは几帳面さと粘り強さだと思っている。その点、ここは美意識が貫かれたいいスタジオで、作られた印刷物を見ていても、紙の使い方や色の合わせ方、版の合わせ方など、どこにも非の打ち所が見当たらない。普通なら諦めるようなところでも、検証に検証を重ねて作り上げているのだろう。彼らの印刷物を見ていると、表現こそ違えど、陶芸家の二人にも通ずる、美意識を感じずにはいられない。色に対する異常なこだわりも韓国のものの美しさに欠かせない要素なのだと、ひとり納得。おっと、呑気に感心している場合じゃなかった……。

下は、勝手に“ソウルの堀道広さん”と呼んでいたユン・イェジのポスター。印刷所の片隅には刷り上がった作品を保管している棚があり、その場で買うこともできる。韓国の、おニューなイラストレーターを見つけたいときはこの店に行くといい。40,000ウォン〜

Early Summer To Do List 45-2

ユン・イェジのポスター

上写真の2枚のリンゴのポスターは、チャン・ウチョルの作品。元、韓国版『GQ』のエディターで、趣味で始めた写真が高く評価される作家。江藤さんはこれを見るなり「欲しい……」と一言。左端は写真家、イ・イルジュのもの。それぞれ40,000ウォン〜

韓国で見つけた日用品。

POP-EYE 47 Travel

『パピエラボ』で会う江藤さんはいつも落ち着いているし、彼の人柄が滲み出た店も整理整頓されていて、いつも緩やかな空気が流れている。ここまでの文章からもその感じは伝わっていると思うが、実際は、欲しいものに溢れたソウルの街に入るなり、一変。市場に骨董街といろんな店を回るうち、完全に〝ゾーン〟に入り、ハチドリが蜜を求めるように、店から店を回る、回る。それもかなり速い足取りで。ここに集まりし17点は、完全に買い付け目線で選ばれた韓国の日用品たちだ。

羽田空港からソウルまでは約2時間。江藤さんのコメントを読めば、日本の地方に足を延ばすくらいの気軽さで、韓国に行きたくもなるが、この中のいくつかは『パピエラボ』の店頭に並ぶかもしれないよ！

モナミのペン

Early Summer To Do List 47-3

採集地	教保文庫
素材	鉄

韓国には、〈モナミ〉という文具メーカーがあるとスランさんに教えてもらった。本屋で手に入れたこちらは、モナミの高級版『153ホワイト＆ブラックエディション』。マットな鉄の質感が手に馴染みやすく、丸みのある優しいインクの出方など、完璧すぎるペンだった。韓国の〈ぺんてる〉といったところか。各18,000ウォン

アンティークの餅型

Early Summer To Do List 47-2

採集地	踏十里古美術商街2棟
素材	陶器

韓国のお餅に判子のように型を押す〝餅型〟と呼ばれる日用品。かなり古いものだと聞いたが、僕はその歴史よりも朴訥とした鳥の表情に目を奪われた。ひっそりとした骨董店の中で呼ばれているような気がして……。用途も関係なしに買っていた。窓際に置くだろうけど、いつか餅に判を押してみようと思う。30,000ウォン

セオン・クワン・ミョンの漆器

Early Summer To Do List 47-1

採集地	阿園工房
素材	竹

韓国の漆は、日本のもの以上に透明感があり、そこが好み。以前、足を運んだ『生漆工房』という老舗は跡形もなく消えていたけど、韓国のクラフトものが勢揃いする『阿園工房』には、現代の作家が手掛ける漆ものがあった。竹目が透けて見える漆の美しさは、やはりいいものだと再確認。左／80,000ウォン、右／70,000ウォン

広蔵市場のスチールカップ

Early Summer To Do List 47-5

採集地	広蔵市場
素材	スチール

広蔵市場は、雑貨から食べ物まで生活に必要なものは一通り揃う。そんな市場で一目惚れしたのが、こちらのスチールカップ。スランさん曰く韓国の家庭には必ずあるベーシックなものだそうだが、この余計な装飾を省いたミニマルな造形にスーパーノーマル的な美しさを感じた。キャンプに持っていこうと思う。3,000ウォン

アンティークのレンゲ

Early Summer To Do List 47-4

採集地	踏十里古美術商街2棟
素材	陶器

昔、韓国で手に入れた陶器のレンゲを愛用していたのだが、あるとき割ってしまった。それ以来探していたが、ついにソウルの骨董街で発見。草模様の染め付けに品が漂ういい佇まいで、150年前に作られたものとか。が、購入後に中国製と判明。だけど、外国で外国のものを買うのもありだと言い聞かせている。50,000ウォン

シキジャンのカゴ

Early Summer To Do List 47-8

採集地	シキジャン
素材	籐

旅に出たら、いつもカゴを見るようにしている。なぜ？と言われても回答に困るのだが、紙と同じでその土地の個性が詰まっているような気がするからだ。『シキジャン』で見つけた、このカゴからは気品を感じる。竹のちょこんとした持ち手など、細部まで抜かりない。この細やかさこそ、韓国の美しさのひとつだ。70,000ウォン

キム・ミンスのランチョンマット

Early Summer To Do List 47-7

採集地	CHAPTER1 EDIT
素材	麻

ハンナムにあるインテリアショップ『CHAPTER1 EDIT』では、キム・ミンスさんのランチョンマットを手に入れた。韓国伝統のサンベ（麻）を使ったものだが、ポップアートのようにグラフィカル。品がありつつ、味に逃げてない雰囲気もいい。伝統工芸のテクニックを持った現代作家のほうが当たりが多いような。各36,000ウォン

パーク・ミギョンのフォーク

Early Summer To Do List 47-6

採集地	阿園工房
素材	銅

りんごのフォーク用にいいなぁと思ったのがこちら。値段も手頃だが、よくよく眺めてみると、銅の表面に漆がさらりと塗られている。その気の利いた些細な装飾にグッときた。パーク・ミギョンさんという現代の作家が作ったものと聞いたが、いい意味で洗練されてない感じがまたたまらないのだ。各15,000ウォン

photo: Naoki Honjo text: Koji Toyoda

阿園工房のブローチ

Early Summer To Do List　47–11

採集地	阿園工房
素材	シルバー

こちらも『阿園工房』にて。銀杏の葉っぱを象ったシルバー製のブローチなのだが、目にしたときにアーヴィング・ペンの写真集『パッセージ』の表紙がパッと思い浮かんだ。日用品ではないが、彼の写真のようにカメラで撮影したら美しいだろうなと思って購入。現在は、奥さんの胸元で輝いている。70,000ウォン

阿園工房のペーパーウェイト

Early Summer To Do List　47–10

採集地	阿園工房
素材	木

『阿園工房』で、平台に金属工芸品と一緒に置かれていた木のオブジェ。持ってみると軽く、ペーパーウェイトとしては不十分なような気がするが、粗い削り跡が残ったラフな雰囲気は紙の上に映える気がした。作家ものか工芸品かもわからないが、さらりと販売する『阿園工房』はいい店。懐の深さを感じる。45,000ウォン

張紙房の封筒

Early Summer To Do List　47–9

採集地	張紙房
素材	韓紙

和紙よりも重量感や厚さのある韓紙が好きだ。だから、ソウルに行けば迷わず手に入れるのだが、今回は韓紙の老舗『張紙房』で風変わりな封筒を見つけた。韓紙の上から漆をバシャッとかけたデザインで、アクションペインティングの神様、ジャクソン・ポロックのようにも思えてくる。何度眺めても飽きない。各3,000ウォン

キルティングのペンケース

Early Summer To Do List　47–14

採集地	広蔵市場
素材	綿

韓国伝統のパッチワーク、ポジャギを探しているときに、衣料品店の傍らに申し訳なさそうに並んでいたのがこのペンケース。生地がいいわけじゃないし、作りもとことん簡素だが、韓国っぽい青みのある白さはやっぱり美しかった。考えてみれば、白い布のペンケースってなかなかないし、もっと作ってくれないかなあ。3,000ウォン

ナム・ギサンのスプーン

Early Summer To Do List　47–13

採集地	阿園工房
素材	鉄

韓国の金属工芸のカトラリーは、普段から金属製の食器を使うだけあってレベルが高いなぁと思う。スッカラや箸などを散々見てきた中で、価格とデザインのバランスがよく取れていたのがこちら。キノコをモチーフにしたというキュートな見た目もかわいげで所有する喜びもある。これでアイスクリームを食べたい。80,000ウォン

コーナーズのメモ帳

Early Summer To Do List　47–12

採集地	Corners
素材	紙

『Corners』では、即購入を決めたチャン・ウチョルのポスター以外にもいいものがたくさんあった。こちらはメモ帳。印刷所だけにメモ用紙にもこだわり、リソグラフにも使われるいい紙で仕上げてある。表紙にロゴはなく、ネオンサインのような蛍光イエローのみ。現代アートに通ずる雰囲気がいいですね。4,000ウォン

ヤンジのメモ張

Early Summer To Do List　47–17

採集地	教保文庫
素材	紙

前述の〈モナミ〉など、韓国のベーシックな文房具は、ことごとくセンスがいい。この〈ヤンジ〉もそうで、現地の会社員が使うものらしい。僕は旅先でノートを買って、気になったことを書き付けるという習慣があるので、これを見つけたときは小さくガッツポーズ。書き心地も良かった。左／1,800ウォン、右／2,000ウォン

鳥の箸置き

Early Summer To Do List　47–16

採集地	踏十里古美術商街2棟
素材	陶器

『踏十里古美術商街2棟』では、鳥の箸置きも見つけた。これは名もなき作家さんが作っていると聞いたが、首元に塗られた蜂のような縞模様に目を奪われた。箸を置く背中部分が広いのは、箸にスッカラ、フォークを並べるためとか。ただし、いまのところこれにカトラリーを置く予定はなく窓の脇に飾っている。10,000ウォン

植物館PHのバケットバッグ

Early Summer To Do List　47–15

採集地	植物館PH
素材	コットン

蝋引きしたコットン製のバケットバッグは、スランさんがアートディレクションを頼まれた『植物館PH』のオリジナル。品のいい素材感はもちろん、真鍮の大きいクリップを付属品にするなど、彼女らしいセンスの良さが細かいところまで行き届いている。今度、植物を買いに行くときはこれを使おうと思っている。33,000ウォン

1, 6, 10, 11, 13.『阿園工房』ソウル特別市鍾路区北村路5ギル3　10:00〜19:00　無休　**2, 4, 16.**『踏十里古美術商街2棟』ソウル特別市鍾路区鍾路1ギル1 B1　9:30〜22:00　無休　**5, 14.**『広蔵市場』ソウル特別市鍾路区昌慶宮路88　10:00〜19:00　日休　**3, 17.**『教保文庫』ソウル特別市鍾路区鍾路1ギル1 B1　9:30〜22:00　無休　**7.**『CAHPTER1 EDIT』ソウル特別市鍾路区仁寺洞11ギル22　10:30〜20:00　無休　**8.**『シキジャン』ソウル特別市江南区三成路751　10:00〜19:00　日休　**9.**『張紙房』ソウル特別市鍾路区ナルト路65　11:00〜19:00　日休　**12.**『Corners』ソウル特別市中区水標路66 2F　10:00〜18:00　土・日・祝休　**15.**『植物館PH』ソウル特別市江南区廣平路34ギル24　9:00〜21:00　月休

Early Summer To Do List 48-2

メゾン マルジェラの半袖のニットカーディガン

素材は深い紺が際立つとろりとしたウールで、こちらも開襟。胸ポケットが付いていて、エンベロープ型の遊び心が。半袖のニットカーディガン¥120,000、サコッシュ付きのナイロンフーディ¥179,000、コットンパンツ¥79,000（すべてメゾン マルジェラ／メゾン マルジェラ トウキョウ☎03-5725-2414）

SIMフリースマホだけで深夜特急ルートを辿りたい。

POP-EYE 49 Travel

ジャック・ケルアックはTシャツにチノパンでアメリカ中を旅したし、沢木耕太郎はTシャツにジーンズでユーラシア大陸を横断した。どちらも潔く真似したいが、今を生きる我々はTシャツにスマホで旅をしたい。

遡ること二十数年前に放送された大沢たかお主演のドラマ版『深夜特急』を観るとなにかと大変そうだったが、今やSIMフリーのスマホがあれば世界のほぼどこでもインターネットにつながる。移動手段の手配や宿探しも楽だし、コンビニ感覚でいけるんじゃないか？　そんな思いつきからスマホ片手に夢想したルートが下図だ。なんなら『深夜特急』もスマホで読めるし、アームチェアトラベリングよろしく、検索すればかなり精緻に旅程も組める。一部ルートを改変したが、原典に沿って沢木さんの足跡を辿りつつ説明しよう。

旅の始まりは香港。沢木さんは人と物に溢れた繁華街、廟街に魅了されひと月ほど滞在している。「用がない時でもただ漠然と乗っては往復して帰ってきたりするほどだった」というスターフェリーにもぜひ乗ってみたい。50セントのアイスクリームをなめながら眺める対岸の光景はいつ見ても美しく「60セントの豪華な航海」と書いている。ちなみに現在は平日片道運賃が2ドル70セント（香港ドル）、日本円で約40円！

フェリーで1時間のお隣マカオでは「大小」という3つのサイコロの目の合計が10以下なら「小」、11以上なら「大」と賭けるだけのシンプルな博奕に熱中している。とあるテーブルでは出た目の表示が「大小大小小小小小小小小小」と極端だ。ここで沢木さんは「小」に賭けて勝ち、そのままのめり込んでいく。中国発祥で今でも人気のゲームだというから、訪れた際は勇気を出して追体験だ。さて、マカオは世界遺産がひしめく見どころ満載の街でもある。特に聖パウロ天主堂跡（葉字名「大三巴牌坊」）が気になった。その昔ポルトガルの貿易拠点の最前線だったマカオの宗教的中心地だったものの、火災で焼失し現存するのは壁だけ。有名な観光地へ積極的に足を運んだわけではない沢木さんが行った数少ない名所のひとつだ。

マカオから香港に戻り、飛行機でバンコクへ。香港で魅了された廟街の影を追って沢木さんは歩き回る。そう、旅の基本は街歩き。バンコクではチュラロンコン大学の学食を見つけてランチ。安価だし露店に比べれば安全な気もするし、学生が普段食べているものを知ることもできる。

お腹を満たした沢木さんはマレー鉄道に乗ってマレーシアを経由しシンガポールへ。タイとマレーシアの国境に近いソンクラーにはリゾート地として有名なパタヤより綺麗な海があり沢木さんもここに1泊している。とても気になるところだけれど、不要不急の渡航中止となっているため断念。バンコクからシンガポールまでは飛行機で行くルートにした。ここで泊まれずともぜひ訪れたいのは、ラッフルズ・ホテルのロングバー。沢木さんもお茶を飲んだというこのクラシックなホテルで過ごす昼下がりなんて、素敵じゃないか。

そのシンガポール編も収録された『深夜特急』第2巻、第6章には沢木さんが旅を始めるに至った経緯が書いてあるのだが、「男は26歳になるまでに一度は日本から出た方がいい」というドキッとするエピソードが登場する。若干の世間知はあるものの、旅先で未知な体験に触れられるくらい経験は乏しい時期が26歳だという。大体なにを食べてもおいしいし、とも。この辺りは『深夜特急』出版後に書かれたエッセイ集『旅する力』に詳しい。併せて読もう。

さて、旅は続く。次はコルカタに行こうと思った沢木さんは来た道を戻りバンコクへ。旅行前に準備していた航空券はバンコク発デリー行きで、出発地を変更するより戻ったほうが安上がりだったからだ。とはいえ、さすがに面倒なので、このプランではシンガポールから直接コルカタに行く飛行機に乗ろう。

当時、英語名で〝カルカッタ〟と呼ばれていたこの地は、2001年にベンガル語読みの〝コルカタ〟へ正式名称が変わっている。サダル・ストリートの安宿街はバックパッカーの間で知られていて沢木さんも宿泊しているが、今なお治安がよろしくないとの情報があり怖いので電車に飛び乗る。日本の人力車に由来する車両〝リキシャ〟が多く残っているというからそれでハウラー駅まで駆けよう。デリーまで電車で22時間弱、1446kmをなんと1000円足らずで行くことができるのだ。ちなみに沢木さんはこの間、ネパールにも足をのばしている。首都カトマンズはヒッピーの聖地のひとつで、当地に向かうバスには世界を放浪する若者がたくさん乗っていたという。

デリーはまさに『深夜特急』スタートの地。というのもこの旅、当初の（そして唯一の）目的は「デリーからロンドンまで乗り合いバスで行くこと」だから。乗り合いバスで行

電子版あります。

『深夜特急』には1970年代中頃、26歳の沢木耕太郎が香港からロンドンまで16か国を旅した記録と記憶がつまっている。新潮文庫で全6巻。Kindleの合本版（¥2,678※税込み）ならスマホで済む。

くのも酔狂な試みだが、言葉もわからぬままボリウッドの1973年のクラシック『ボビー』を観たり、さらに現地の人と打ち解けた上に食事の代金を値引きしてもらったりとインドでは無敵。スゴイゾサワキ。

4巻ではバスでパキスタン、アフガニスタンを通過するが、現在は渡航中止勧告・退避勧告の出ているエリアなのでパス。デリーから飛行機でイランのテヘランへ行くルートに変更した。シルクロード横断では脱水症状を防ぐためにブドウ、ザクロ、サトウキビなどの水分の多い果物を持ち込んで、喉の渇きを潤したという。長丁場になる移動のおいしいトラベルハックとして使えそうだ。

沢木さんの次なる目的地はトルコのアンカラ。イランを南下しシラーズからアラビア半島横断を試みるが、ビザの発給に時間がかかるため断念。テヘランに戻り、バスでトルコへ入っている。さて、現代の我々はどうしようかと探すと、テヘラン・アンカラ間を走る、トランスアジア・エクスプレスという魅力的な国際列車を見つけた。途中の湖をフェリーで渡り対岸で別の列車に乗り換えるという、なんとも楽しそうな路線なのだが、残念ながら現在休止中。再開の予定はあるようだから今回は諦め、イスタンブールまで飛行機で。

東洋と西洋の狭間にあるイスタンブールは世界中を回る多くの旅人が通過する土地で、情報共有の場。なかでもレストラン『プディング・ショップ』は映画『ミッドナイト・エクスプレス』(1978年)にもそのモデルが登場した、いわば聖地。麻薬の密輸未遂のためトルコで捕まったアメリカ人青年が脱獄する実話ベースの物語で、1970年に逮捕、'75年に脱獄するのだが、ちょうど沢木さんが旅していた時期と重なる。そして、『深夜特急』というタイトルは本作に由来しているのだ。

さて、ここまでくればもう終盤。いよいよヨーロッパに入る。トルコからギリシャのアテネ、スパルタを巡りパトラへ。この港町からイタリアの〝踵〟に位置するブリンディジへは17時間の船旅。沢木さんが乗った航路は今もあるし、船なら宿代が浮くから貧乏旅行にうってつけだ。陸路でイタリアを縦断し、モナコ、マルセイユ、マドリードを経て、ポルトガルへ。リスボンで飲んだビール、セルベージャがきっかけで、ポルトガルのサグレスへ向かい、ユーラシア大陸最果ての地、サン・ヴィセンテ岬に到着するシーンは旅の終わりを感じる終盤のハイライトだ。

マルセイユからバルセロナは『深夜特急』へのリスペクトを込めてバスに乗ろう。路線は街の真ん中を通っているため、建築物や市場の買い物客、公園で遊ぶ子供を間近に見られるのがバス移動の魅力だと沢木さんは書いている。車窓の景色は一度きりだから、真夜中に通り過ぎたルートは後悔しているとも(『深夜特急』なのに)。

バルセロナからサグレス、リスボンへとイベリア半島を時計回りに進み、飛行機でパリへ。ユーロスターに乗って、ついに最終目的地のロンドンに到着だ! 『深夜特急』はロンドンで電報を打つシーンで終わるが、実際にはオランダ、ドイツ、ベルギーを回り、パリからモスクワ経由の飛行機で帰国している。これは前述の『旅する力』で知ったこと。

沢木さんは旅行中にたくさん手紙を書き、それが『深夜特急』執筆時の資料になったというが、その原動力は一人旅ゆえの寂しさにあったんじゃなかろうか。となると友達とメッセージくらいはしたいから、やっぱりどこの国でも使えるSIMフリースマホは欠かせない、ってことで。

13か国を片道切符で駆けてみた。

POP-EYE 50 Travel

Ⓐ	Course	香港 ⇆ マカオ
	Cost	フェリー / ¥2,500 (片道)
	Time	1時間
Ⓑ	Course	香港 → バンコク
	Cost	飛行機 / ¥12,340
	Time	2時間55分
Ⓒ	Course	バンコク → シンガポール
	Cost	飛行機 / ¥6,065
	Time	2時間20分
Ⓓ	Course	シンガポール → コルカタ
	Cost	飛行機 / ¥17,352
	Time	4時間20分
Ⓔ	Course	コルカタ → デリー
	Cost	電車 / ¥1,000
	Time	21時間50分
Ⓕ	Course	デリー → テヘラン
	Cost	飛行機 / ¥23,517
	Time	7時間
Ⓖ	Course	テヘラン → イスタンブール
	Cost	飛行機 / ¥15,641
	Time	3時間15分
Ⓗ	Course	イスタンブール → アテネ
	Cost	飛行機 / ¥8,172
	Time	1時間30分
Ⓘ	Course	アテネ → パトラ
	Cost	電車・バス / ¥2,130
	Time	2時間54分
Ⓙ	Course	パトラ → ブリンディジ
	Cost	フェリー / ¥5,406
	Time	17時間
Ⓚ	Course	ブリンディジ → モナコ
	Cost	電車 / ¥9,360
	Time	18時間53分
Ⓛ	Course	モナコ → マルセイユ → バルセロナ
	Cost	電車・バス / ¥7,500
	Time	12時間14分
Ⓜ	Course	バルセロナ → サグレス
	Cost	飛行機・電車 / ¥15,000
	Time	7時間28分
Ⓝ	Course	サグレス → リスボン → パリ
	Cost	電車・飛行機 / ¥9,000
	Time	12時間19分
Ⓞ	Course	パリ → ロンドン
	Cost	ユーロスター / ¥8,330
	Time	2時間26分

Total Cost	¥145,813
Total Time	12日と13時間39分 (5/9 9:00 - 5/21 22:39)

※所要時間・料金等は4月4日時点での編集部調べです。

そもそも、SIMってなんだ?

SIMはスマホに差してるICカードのこと。通信方法は国や地域によるから、長期間滞在するなら差し替えておくと便利だし、大抵安く済む。3GBで1000円ほどと通信容量が決まっているプリペイド式が多い。事前にAmazonや家電量販店で買っておくと安心だ。現地調達するなら現地の通信会社のロゴを覚えておくとよい目印になる。

よく知らなかった、ストップオーバー。

ストップオーバーとは、航空機の乗り継ぎ地点で24時間以上滞在すること。チケットは1枚で済むし、それぞれ航空券を買うより安上がり。ただ、乗り継ぎがあるからといって必ずしも入国・滞在できるわけではないので注意。沢木さんのデリー行き航空券は2か所でストップオーバーできたから、香港・バンコクでの旅があったのだ。

気負わず柄シャツ。

Early Summer To Do List 51

ドリス ヴァン ノッテンの ヴェルナー・パントンの 柄のシャツ

デンマークの巨匠、ヴェルナー・パントンの作品とのコラボ。テキスタイルはプリントで入っている。ショートスリーブコットンシャツ¥50,000（ドリス ヴァン ノッテン☎03-6820-8104）　その他は私物

白にブルーに薄い黄色、柄を着てもキャンディストライプ。ここ何年もシャツといえば、普通の生地ばかりを好んで着ていたのだが、この春は自分の中で何かが変わった。正確にいうと、変わったのではなく、どこか着たくなるような、知的で洒落た流手なシャツをよく目にするようになったからそう思うのかもしれない。こちらは〈ドリス ヴァン ノッテン〉の半袖シャツ。柄はかのデザイナー、ヴェルナー・パントンがデザインしたもの。ただの柄ものに興味はないが、ヴェルナー・パントンだったら話は別で、パントンチェアのような曲線がグラデーションで描かれている。ほら、俳優の矢本悠馬くんも似合っているでしょ？

photo: Yuri Manabe　styling: Shinichi Sakagami
grooming: ISINO　text: Tamio Ogasawara

さらに、ピンクのシャツも。

なんで矢本くんだったかというと、こういった品のあるカラーシャツをいい感じに着ていそうな俳優さんだったから。中学生の頃にサンデーで連載していた『今日から俺は!!』にドハマりして以来、青春を思い出して、ドラマをちょこちょこ観ていたのだが、もう僕は谷川安夫役の矢本くんから目が離せなくなっていたわけだ。三橋でも伊藤でも今井でもなく、谷川である。この〈サンリミット〉のキレイなピンク色の開襟シャツもバッチリだ。足元がクラークスのトレックってのも、固めた髪型もいい。ちなみに、今矢本くんが欲しいものは、クローゼット型のホームクリーニング機。最新作の映画『賭ケグルイ』では「自分が自由過ぎて反省しました」との弁。

Early Summer To Do List 52

サンリミットの ピンクの半袖開襟シャツ

上品ではない知的なピンク。素材は少し光沢感のあるコットンツイルで。ショートスリーブオープンカラーシャツ¥22,000（サンリミット／サンリミット 北参道店☎03-6804-3234）その他は私物

矢本悠馬

俳優

やもと・ゆうま｜1990年、京都府生まれ。マンガオタクで、買い物はほぼ『ネペンテス』と『LANTIKI』で。映画『賭ケグルイ』は全国公開中。今後は7月期の連続ドラマへの出演の他、映画『アイネクライネナハトムジーク』が9月公開予定。舞台『アジアの女』は9月6～29日、Bunkamuraシアターコクーンにて。

Early Summer To Do List 53-1

アップサイクルのロックT

ライブは白T、タックインで。

POP-EYE 53 Fashion

フェスやライブの旬がやってきた。ちょっとこの辺で、音楽を聴くときの服装について考えてみる。といってもクラシックのコンサートなど、マナーが問われる場所でない限り、正直なんでもありなわけだが、普段着るならまだしも、ライブにバンドTというのも芸がない。そこで白Tだ。

ボトムスはブルーデニムかジャストサイズのトラウザーズ。いずれにしても、タックイン。ただ普通のものを普通に合わせただけなのに、デニムであれば「ラモーンズ」みたいな'70sパンク、スラックスであれば'90sの「SUEDE」的ブリットポップ。そこにはまさしく音楽の雰囲気がある。いや、今はヒップホップの時代だよ、なんて声も聞こえてきそうだが、ラッパーの5lackもいつかのライブでジャストめの白Tを黒のスラックスにタックインし、革靴を履いていた。それは、最高にかっこよかった。どこで何を聴こうと音楽を前に格好は潔いに越したことはない。

最後に、白Tは替えの持参を忘れずに。汗でびちょびちょのは見た目が悪いし、普通に帰りに風邪をひく。

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: HORI edit: Ryoko Iino

Early Summer
To Do List 53-2

トム フォードの サイドアジャスターパンツ

右ページ／2018年にLAでスタートしたばかりのカットソーブランドで見つけたのは、自分で袖をカットオフしたように見える、最初から切りっぱなしの新品。その名も完璧な「VINTAGE WASH ROCK TEE」。Tシャツ￥3,900（アップサイクル／メイデン・カンパニー☎03-5410-9777） ヴィンテージの〈リーバイス〉のデニム「606」￥98,000（VOSTOK☎03-3470-2221） '80ヴィンテージの〈コンバース〉の「オールスター」￥90,000（メモ☎03-3498-9100） 左ページ／コットンウール素材でノータックのシンプルなトラウザーズは、サイドアジャスター部分のデザインも控えめで、ただただかっこいい。ゴールドのブレスレットも映える。サイドアジャスターパンツ￥170,000、ブレスレット￥840,000（ともにトム フォード／トム フォード ジャパン☎03-5466-1123） ヴィンテージの〈フルーツオブザルーム〉のTシャツ￥2,800（ベルベルジン☎03-3401-4666） '80ヴィンテージの〈コンバース〉の「オールスター」￥90,000（メモ）

ベージュのシャツでどこへでも。

Early Summer To Do List 54

シャルベの ニューボディのシャツ

〈ユナイテッドアローズ〉がフランスの老舗〈シャルベ〉に別注したシャツは、自分に合ったネックサイズでもボディがかなりゆったりとしたつくり。だらしなくないが、気取ってはいないし、肌馴染みがよいベージュは、どこへ着ていっても恥ずかしくない。さらにいい人に見えるおまけだって付く。正直お高いけど、洗いざらしでもシャンとするし、なんでもない日に着る〈シャルベ〉こそ気分がいいのだし、結局めちゃくちゃ着るだろうから、元なんてものはすぐに取れてしまうよ。

シャツ¥48,000（シャルベ／ユナイテッドアローズ 六本木ヒルズ店☎03-5786-3501）、Tシャツ¥1,200（ヘインズ／サンタモニカ 渋谷店☎03-3462-1984）、ユーズドの〈リーバイス〉のデニムパンツ「603」¥12,800（STRATO☎03-6886-7195）、コットン素材のリブソックス¥3,000（パンセレラ／真下商事☎03-6412-7081）、シューズ「テサートロントン」¥22,000（ラフ&スノビ ディ&ユーズ／ユナイテッドアローズ 表参道通り店☎03-5428-1893）、70sウィンテージの〈ロレックス〉の時計「REF3141 1002-127」¥248,000（ウンミニ ワンギャラリー☎03-3478-2874）

photo: Taro Hirayama styling: Shinichi Sakagami
grooming: Yoshikazu Miyamoto Edit: Ryoko Ikeno

ちょっとクセのある時計を掘りに。

POP-EYE 55 Watch

時計は、ドレスウォッチ一択。何年もそう思い続けていたけれど、その心をグラつかせる時計に出合ってしまった。それは、原宿の『ダズリング』にあった〈オメガ〉の「ダイナミック オートデイト」。

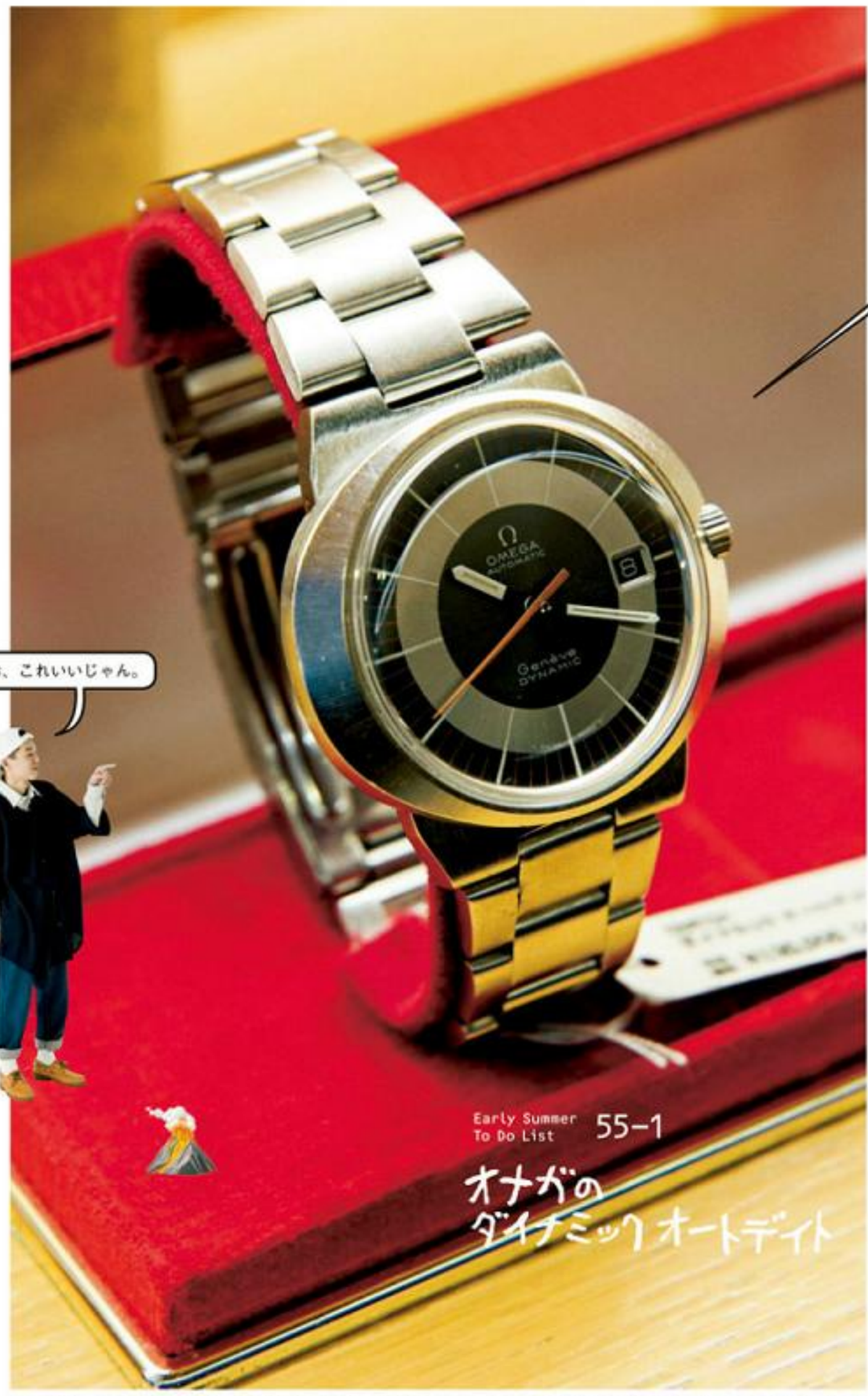
品のいいドレスウォッチがひしめく中で、この時計に目が留まった理由は、一言で言うと〝違和感〟。最初は「へぇ、こんなものもあるのね」くらいだったけど、何度も見返すうちに、それが〝存在感〟に変わり、無視することのできない不思議な魅力へと変わっていく。実際着けてみると、大きめのサイズ感もいい、レトロフューチャーな配色もいい、オレンジの針もいい、と〝プロビデンスの目〟のような文字盤に魅入られるように、クセのあるデザインの虜に。聞けば、この時計が作られた1960年代末〜'70年代は、未来を予感させるような、デザインウォッチが花開いた時代だという。思い起こせばこの頃は、宇宙開発競争の真っ只中。NASAは何度も月を目指したし、1968年には映画『2001年宇宙の旅』が公開。インテリアも、フューチャリスティックなものが多かったし、フィリップ・K・ディックの『ユービック』など、SF小説の傑作も発表された。今見ても色褪せない〝近未来〟がライフスタイルの中に溶け込んでいたのだ。

それに、時計業界で言えば、クオーツ時計という発明品の登場も大きかった。機械式メーカーがあぐらをかいている間に市場を席巻。焦った老舗たちは次なる一手として、〝スペースエイジ〟を象徴するような時計を作るようになっていったという逸話も残っている。

そんな〝絶望的な危機〟（クオーツショック）を経験しているからか、アンティークウォッチ店で見かけるそれらは、突き抜けてグッドデザイン！　しかも、つぶさに見ていくとクロノグラフ率の高いことに気づかされる。今回掘ってみた〈フォルティス〉も〈ブライトリング〉も〈ホイヤー〉もそうだけど、いずれもシックな雰囲気に寄りすぎず、計器や表示もデザインの一部だと言わんばかりに遊んでいるから、眺めているこっちも楽しくなってくる。

我らが〈セイコー〉も時代の一端を担っていたらしく、「ファイブスポーツ スピードタイマー」シリーズは一ジャンルを築くほどに種類が豊富。後の〈スウォッチ〉を先取りしたようなポップなものもあれば、〝精工舎〟だけに、いかにも緻密そうな渋いものも。同じシリーズでもデザインはさまざまで、見比べるのも面白い。ちなみに20年後の'90年代には、イタリアのポストモダンデザイン界の大ボス、エットーレ・ソットサスとのコラボも実現。'70年代に芽吹いたデザインウォッチが、大好きなカルチャーとも繋がっていくことを知ると、さらにこの年代の時計がいいなぁと実感。時計マニアに言わせると、この手のものはB級らしいが、僕らにとっては完全なるA級だ！　と思えてきた。

と、同時にやれ〈ロレックス〉だ、やれ〈パテック・フィリップ〉だのと、ブランドになんとなく囚われてしまっていた自分に恥ずかしさを感じた。〈ゾディアック〉のように、耳慣れないメーカーにもこんなにも格好いいものがあるのだから。グラフィックに惹かれてTシャツを買うように、時には自由な気持ちで時計を選ぶのもいい。それは、この時計たちが生まれたこの時代のヒッピーマインドにも近いような。僕はショーケースに佇む、〈オメガ〉の「ダイナミック オートデイト」に魅入られたときから、自由な空気感を求めていたのかもしれない。



〈オメガ〉はスピードマスターだけと思うなかれ。楕円形のボディに、放射線状に12本のインデックスが広がった「ダイナミック オートデイト」は、〈オメガ〉が妄想した近未来の時計そのもの。1965年に宇宙飛行士の標準装備品に認定されたブランドだけあるね。¥130,000（アンティーク ウォッチ ダズリング☎03-3475-6677）

ブスポーツ スピードタ
とは、切れないゼンマ
き、デイデイト表示
を備えることを意味
インも色褪せない。¥98
000（時計店 L☎03-3746-7893）

これってタグ・ホイヤー？
Early Summer To Do List 55-5
ホイヤーのテンポラーダ
大きな目玉のようなインダイヤルに、優れたグラフィックデザインのようなポップな色合い。こちらは、'70年代〈ホイヤー〉を代表するクロノグラフ。スティーブ・マックイーンが愛した「モナコ」にも似てる。¥398,000（ワンミニッツギャラリー☎03-3478-2874）
ダーツのボードを彷彿とさせる'70s〈ロンジン〉。派手なカラーリングに目を引かれたが、実は同じくスイスの老舗時計メーカー〈レコード〉のムーブメントを使ったダブルネームもの。文字盤にも名前が仲良く並んでいる。¥150,000（アイテム☎03-3476-5506）
Early Summer To Do List 55-4
ロンジン×レコードのリストウォッチ
Early Summer To Do List 55-3
フォルティスのマリンマスター
1920年代、世界初の自動巻き時計の量産化を成功させたエポックメイキングなスイスの老舗メーカー〈フォルティス〉。これは「マリンマスター」と呼ばれる'70年代の代表作で、マリンよりも宇宙船の計器を連想させるところにグッとくる。実際に旧ソ連時代には、宇宙に行ったことも。¥180,000（ホロル・インターナショナル☎03-5784-3582）
"黒馬"もありますぜ。
Early Summer To Do List 55-6
ブローバのアキュトロン
風邪ひいちゃうかも……。
こう見えて'70年代のデザインウォッチを代表するモデル。ムーブメントに使われるのは、宇宙船の計器にも採用されたという音叉。その機能は折り紙付きで、無重力状態でも正確に時を刻んだとも。ちなみにこういうクセの強い時計は、イタリアーの洒落男、フランコ・ミヌッチのようにカフスの上から巻くのがいいなぁと思っている。¥160,000（ジャンティーク☎03-5704-8188）
Early Summer To Do List 55-7
セイコーのスピードタイマー"茶馬"
1970年代は〈セイコー〉のクロノグラフの全盛期で、「スピードタイマー」にもいろんな種類がある。こちらは、1974年製の通称「茶馬」と呼ばれるモデル。鉛色の文字盤も、月、火……と日本語仕様の日付も、古いラジオのようなオールド感が堪らない。¥216,000（時計店 L）
Early Summer To Do List 55-10
ゾディアックのシーウルフ
スイスのダイバーズウォッチの名門メーカー〈ゾディアック〉って知ってる？いかにも渋そうな雰囲気漂う名前だけど、'60年代に発表された「シーウルフ」は超ポップ。視認性を高めたというオレンジフェイスは見るも鮮やかで、海の中でなくともばっちり目立つ。¥280,000（アイテム）
'90年代に入っても、グッドデザイン一筋を貫いたのが、〈セイコー〉。ジウジアーロと組んだ「スピードマスター」もいいが、こちらはポストモダンの巨匠、エットーレ・ソットサスを招聘したもの。ちゃっかり伝統のクロノグラフなのもいい。¥34,560（時計店 L）
ポストモダンですなぁ。
Early Summer To Do List 55-9
セイコーのスピリットスマート
Early Summer To Do List 55-8
ブライトリングのスプリント
快傑ゾロのアイマスクのようなフェイス。「何これ？」と二度見すると、"BREITLING"の文字。今は航空時計を作るメーカーとして名を馳せるが、1970年代はピースな空気を思う存分に吸い込んでいたんだね。当時は〈オメガ〉の「ダイナミック」と並んで人気があったそう。¥248,000（アイテム）

Early Summer To Do List 56-1

大山岬の外岩

高知にいい外岩があると聞いて。

POP-EYE 56 Outdoor

もう何年も前から〈ザ・ノース・フェイス〉のクライミング好きたちから聞いていたのが、高知の外岩の話。海外からクライマーがやってきたら、「高知に連れていくことが多いんですよね」なんて言っていたのがなんだか忘れられなくて。いきなり外岩なんて登れるわけじゃないのはわかっているけど、高知もまったくことないし、海も真横でとに気持ちよさそうだし、友達の京大大学院に通うクライマーの中嶋徹くんたちも一緒に行ってくれることになったので、念願叶い高知トリップ。羽田から飛行機で1時間20分、そこから車で50分ほどで、目的地の大山岬に到着。阪神タイガースの春の2軍キャンプ地で有名な安芸をもう少し行ったところにご機嫌な岩場があった。アメリカ製の〈ORGANIC〉のマットを背負って岩場を歩き、確かに、クラシックにラグビーシャツで登るのって格好いいよなあ、僕もラグビーシャツを持ってくればよかったと思いつつ、まずは外岩を日がな一日楽しんだ。

photo: Takeshi Abe text: Tamio Ogasawara

晴れた岩場はデニムショーツだ。

POP-EYE 57 Outdoor

Early Summer To Do List 57

ザ・ノース・フェイスのクライミングデニムショーツ

〈ザ・ノース・フェイス〉だけに、Tシャツもショーツも見た目以上に機能素材を使っている。Tシャツ¥4,200、クライミングデニムショーツ¥10,000(ともにザ・ノース・フェイス／THE NORTH FACE Alter☎03-6427-1180)　その他は私物

僕はというと、もちろんほとんど何も登れずにだいたい日向ぼっこをしていたわけだが、中嶋徹くんはすごかった。「Crazy for You」と呼ばれる初段の課題もラクラク登っていたし、初登だと思われるルートも5回くらい挑戦して登りきっていた。超かっけー。最初に登った人がその課題の命名ができるそうで、「ポパイって名前でも付けますか」、なんて言ってくれていたけど、波打ち際をバックに、デニムショーツが眩しかった。形はいいし、ストレッチも利いていて動きやすそうだった。太平洋も穏やかだった。

ふーん、ここだな、ここに

引っ掛けるようにチョークを。

登るときはボルダリングマットがないと危ないからね。ここらへんの足場はどこもかしこもゴツゴツと不安定なのだ。それにしてもこの岩はサイの角みたいな形をしていた。

ちゃんとテントでキャンプもしたいのさ。

POP-EYE 58 Outdoor

Early Summer To Do List 58

ザ・ノース・フェイスのテント

手軽なキャンプ用テントは今季の新しいカラーで。マウンテンパーカ¥20,000、Tシャツ¥6,400、パンツ¥13,000、シューズ¥13,000、テント¥37,000、キャンプテーブル¥30,000、チェア¥22,000（すべてザ・ノース・フェイス／THE NORTH FACE Alter）　その他は私物

キャンプサイト

酒造の町、安田町。アユも気持ちよさそうに泳いでいた安田川沿いにあるのが「安田川アユおどる清流キャンプ場」だ。○高知県安芸郡安田町船倉500　☎0887-39-2266

さて、せっかくなのでホテルには泊まらずに、ここぞとばかりにキャンプをする。大山岬から南東にもう少し車で行って、安田川を上流に上っていくとキャンプ場がある。中嶋くんたちは慣れた手つきでテントを張り、快適そうな空間を作っていた。正直僕はこういうのが大の苦手なのだが、長けた人がいるととても助かる。あと、こういうときにボルダリングマットがあると気軽に座れていいなと思った。まだ夜は寒いのでマウンテンパーカなどは必需品。テントはクイーンサイズのマットも入る広いつくりなので、夜もどうでもいい話で盛り上がった。明日は高知市内でも行ってみようか。

街を歩くときは、それなりの格好で。

Early Summer To Do List 59

ザ・ノース・フェイスの半袖開襟シャツ

高知駅周辺はカラフルな路面電車とバームツリーで南国気分というか、どこかカリフォルニア的ムードがあった。厳密にいうと、西海岸のちょっと外れた田舎町ではあるのだけど。それにしても、『筒』という居酒屋さんで夜に食べたカツオの塩たたきの旨かったこと！　塩たたきなんてものがあるのは初めて知ったし、本当にびっくりするほど美味しい。土佐の漁師に伝わる食べ方らしいが、東京では見たことも食べたことも僕はなかった。

中嶋くんは京都大学の大学院に通っているので、もちろん京都に住んでいる。高知へは羽田空港から一緒に行ったのだが、フィンランドへクライミングトリップをしてきた帰りに成田空港に到着するやいなや、そのまま連れてきてしまったわけだ。数年前に会ったときは、まだ信州大学に通っていて、長野に住んでいた。地質学を専攻していて、ヒマラヤの地層を研究しているらしい。山も岩も登り、その指先の奥を見つめる。まだ26歳。どんなふうに年をとっていくのだろう。街を一緒に歩いているときに着ていた茶色い半袖の開襟シャツも知的な感じしかしなかった。スナップボタンというのもなんだか彼らしかった。

旅行にはシワになりづらくて、乾きやすい服があるといいのだ。この開襟シャツもそんな一着。サコッシュも便利よ。半袖開襟シャツ￥14,000、パンツ￥13,000（ともにザ・ノース・フェイス／THE NORTH FACE STANDARD☎03-5464-2831）　アノラックジャケット￥12,000、サコッシュ￥3,800、サンダル￥4,800（すべてザ・ノース・フェイス／THE NORTH FACE Alter）　その他は私物

どうせなら東京にも絶対にない店で。

POP-EYE 60 Shop

噂には聞いていたけど、実際に行くとカツオの塩たたきくらいに素晴らしかったアウトドアショップの『ミルズ』。もともとは『ミルスペック商会』という名のミリタリーショップだったそうだが、何がすごいって、過去の名品のデッドストック祭り。軽く見える範囲で、20年くらい前の〈ザ・ノース・フェイス〉のマウンテンパーカやアメリカ製の〈グレゴリー〉のポーチ、とにかく古そうな〈フィルソン〉のハットや〈コールマン〉のヴィンテージランタンなどがごく普通に置いてあった。まだまだあると見たね。

Early Summer To Do List 60-1
パーカーのボールペン

Early Summer To Do List 60-2
グレゴリーのポーチ

Early Summer To Do List 60-3
コールマンとエスエムピーのヴィンテージランタンとストーブ

岡本正人さんは店の主だけあって、店内のどこに何があるかはすべて把握。1本は欲しいフランス製のパーカーの「ジョッター」（各￥1,200）。'90年代のアメリカ製の〈グレゴリー〉のポーチ（各￥4,700）。〈コールマン〉と〈SMP〉のヴィンテージランタンとストーブは値段応相談で。すべて店頭販売のみ！

MILL'S

今どき通販もネット販売もやっていない稀有な格好いいお店。場所もわかりづらくていい。
○高知県高知市甘代町8-2 2F　☎088-824-1993　11:00〜19:00　水休

コーヒーとカレーのベストコンビを食したい。

POP-EYE 61 Shop

高知の街も歩きたい。

POP-EYE 62 Travel

Early Summer To Do List 61
サンロクコーヒーとカレー

週替わりカレーは、ごぼうのささがきがめちゃくちゃ大変だという米豚のごぼうキーマとココナッツチキンカレー（￥1,100〜）。自家焙煎ブレンドコーヒー（￥500※ともに税込み）も最高。

高知の土地柄に惹かれて、大阪からやってきたという『SANROKU COFFEE』は、ついこの間オープンしたばかりのコーヒーとカレーのお店。食材も安くて美味しくて、人柄もよくてとは店主の釘崎祐介さん。水を飲まなくてもいいくらいすっきり後に残らない中煎りのブレンドコーヒーに、野菜を食べているような気持ちで食べられる週替わりカレー。もう毎週食べたくなるし、飲みたくなるのだろうね、日曜日は行列ができるくらい。レコードもたくさん置いてあっていい音楽が流れている。いい店があるものだね。

SANROKU COFFEE

○高知県高知市桜井町1-5-25　Instagram: @sanrokucoffee　18:00〜LO21:30、土・日11:30〜LO14:30・18:00〜LO21:30
火〜木休　※HPで要確認

COOL

COOL

土佐和紙と活版印刷。紙ものが欲しくなった。

POP-EYE 63 Shop

もちろんすべてが土佐和紙に活版印刷というわけではないのだけど、伝統工芸である土佐和紙一枚では伝えきれなかった魅力が、ささやかなデザインと活版印刷で、用途が決まれば見違える。『竹村活版室』は住宅街にある小さなお店で、そんな「土佐和紙プロダクツ」や手元に置いておきたくなる仁淀川流域の手漉きの土佐和紙の紙ものがいろいろ並んでいた。旅行者はこういう紙ものを。地元の人なら活版印刷の名刺やはがきを作るといいのだね。

竹村さんも住んでいた増築具合のすごい沢田マンションも名所かも。

Early Summer To Do List 63

土佐和紙プロダクツの領収書

竹村活版室

土佐和紙を使った便箋や封筒、ポストカードなどもすごくよかった。○高知県高知市三園町75-5 ☎088-879-4088 11:00〜15:30 不定休※HPのカレンダーを要確認

よおし、ぼうしパンを食べてみようか。

POP-EYE 64 Shop

正直、初めて見た「ぼうしパン」。高知生まれで、高知にしかないパンだそうだ。帽子のつばの部分がさっくり甘いカステラ生地で、メロンパンの変型として偶然に誕生したものなんだとか。『永野旭堂本店』がオリジナルで、その名品がこちらの『リンベル』で味わえる。個人的にはカスタードぼうしなる、手作りのカスタードクリームがたっぷり入ったものがかなり好みだった。高知県内のほとんどの製パン会社で作られているので、いろんなバージョンを探して食べてみるのも面白い。

ぼうしパン（¥140）。時季によっていろいろな種類のぼうしパンが出るそうだ。

Early Summer To Do List 64-1

リンベルのぼうしパン

Early Summer To Do List 64-2

森山製パン所のぼうしパン

たまたま通っただけだけど、ぼうしパン（¥160※税込み）を発見！

幡ヶ谷の『ブルペン』で見たアレだ！

POP-EYE 65 Shop

Early Summer To Do List 65-1

フラットファニチャーの椅子

幡ヶ谷の『ブルペン』で気になっていたフレームフラワーベース。松島くんからもものづくりは高知が面白いと聞いていたので、『FLAT FURNITURE』にも寄ってみることに。黄瀬隆行さんとますみさんのお二人で、無垢の木を使った家具や生活雑貨を作って売っている。スワッグを立ててみたくなったというフラワーベースはやっぱりいいし、個人的にはのびのびと座れるフレームが横に長めの椅子もよかった。

Early Summer To Do List 65-2

フラットファニチャーのフラワーベース

フレームフラワーベースは基本は一輪挿し（Mサイズ¥4,000〜）だが、スワッグ付きのものもある（¥24,000）。メーカーに合わせたコーヒーミル用の木蓋（各¥3,300）や最初に作ったという椅子（¥65,000）も。

FLAT FURNITURE

独学で始めた家具作りは15年ほど。作りかけのソファのフレームも置いてあった。○高知県高知市江陽町5-13 ☎088-821-6255 12:00〜18:00、土〜17:00 月〜金休

芝生に寝転びたい。

Early Summer To Do List 66

バッグスユーエスエーのビーチクロス

寝ていたい。できることならずっと寝ていたい。それが部屋の中でなら怠惰だが、青々と元気な芝生の上でならば、立派で優雅な予定になる。

ちょうどいいピクニックシートの目星はついている。メッシュのポーチに入った〈BAGS USA〉のシートは、人一人が寝るのにちょうどいい大きさで、携帯も苦じゃない。あとはベッドとなる芝生だが、これまたとっておきの公園が調布飛行場の程近くにあることも調べがついている。

健全な物欲は健全な好奇心に宿る。ただ芝生で寝たいってだけでも、こうしてちゃんと調べるのだから、あながち間違いじゃないだろう。さぁ、芝生に寝転がりながら、次のしたいこと、考えようか。

野川公園

[illegible]

[illegible]

[illegible]

レモンの色彩がカーンと冴えかえることで、
こういった新しいものが欲しくなったりする。

01)

これ見よがしではなく、
小物で男を飾るのさ。

YELLOW BOOK

02)

いつかはインドの国宝に
座ってみたいのだ。

01 **HERMÈSの ハットとビーチサンダル**

極めてシンプルがゆえに、やはり〈エルメス〉とわかる空気感。抜けるようなネイビーに、控えめなモチーフのサンダルか。ボルドーとエメラルドグリーンのリボンの、手仕事によるストローハットか。誰にもバレずにそっと特別な買い物をしたい。サンダル￥56,000、ハット￥80,000（ともにエルメスジャポン☎03-3569-3300）

02 **PIERRE JEANNERETの 椅子**

1950年代初頭、かのピエール・ジャンヌレがル・コルビュジエの携わったチャンディーガル都市計画の際にデザインした椅子を、インドの家具工房〈ファントムハンズ〉が復刻。築100年超の建物に使われていたチーク古材を再利用しているので、使い込むほどにヴィンテージの風格が出まくる。￥400,000（五割一分☎03-5577-6293）

04)

わたくし、こう見えても実は、
極めて繊細な作りなの。

03)

薫風が吹く頃には、
爽やかなニットポロでも着て。

07)

ギョサンはギョサンでも
こだわるべきは奈良県産。

06)

開襟でグリーンのストライプ
というのは、なかなか。

05)

ロンドンからやってきた
新しいブランドはいかが？

04 **CELINEの スニーカー**

こういう一見するとオーセンティックなデザインのスニーカーが、〈セリーヌ〉だったりするとテンションも高くなる。赤と青のキャンバスに施されたステッチはきめ細かく、インソールにはカーフスキンを使用し、まるでドレスシューズのようなオーラを放っている。¥61,000（セリーヌ ジャパン☎03-5414-1401）

03 **PRADAの ニットポロシャツ**

どこかヨーロッパのスキーリゾートで見かけそうな〈プラダ〉のハイゲージニットポロ。裾のリブをたっぷりとったクラシックなデザインは、レム・コールハースの建築事務所「OMA」による胸のロゴとも相思相愛。サイズ感は少しぴったりとした感じ。¥120,000※予定価格（プラダ クライアントサービス☎0120-45-1913）

07 **MARURYO HEALTH／SEASUNのサンダル**

ひと口にギョサンといってもタイプは様々。ペールトーンの色合いが洒落た〈マルリョウ〉に、縄状のデザインが渋い〈シーサン〉。どちらも奈良県で作られていて、鼻緒の頑強さや滑りにくさは折り紙つき。飾らないデザインの海の男の業務用感は他にはないね。各¥1,800（ハイ！スタンダード☎03-3464-2109）

06 **USONIAN GOODS STORE×INDIVIDUALIZED SHIRTSのシャツ**

原宿の『ユーソニアン グッズ ストア』が〈インディビジュアライズドシャツ〉に別注した開襟シャツ。スポーツ選手用に胸周りにボリュームをもたせたアスレチックフィットをストンとボックスシルエットに。ポケットが2つありワークシャツのようでもある。¥27,000（ユーソニアン グッズ ストア☎03-5410-1776）

05 **PERSONAL EFFECTSの パーカ**

ロンドンで服作りをする〈パーソナル エフェクツ〉。聞けば、ロンドンのサーファーのデザイナーが2人で作っていて、こちらは'40年代のアメリカ海軍砲兵隊のデッキパーカをベースにデザイン。ワックスドコットンのイエローは深みがあり、しっとり感もある。リバーシブル。¥68,000（マッハ55リミテッド☎03-5413-5530）

09)

柚木沙弥郎さんのデザインが
ポルトガルのラグに入った。

08)

このロゴひとつで、
お財布を新調したくなる。

12)

長袖のニットのような
スウェットを着てみたくて。

11)

シャーベットのような
色合いが涼しげである。

10)

ちゃんとしていても
かしこまってないのがいい。

09 **IDÉE×柚木沙弥郎×RUG BY GURのラグ**

ラグに描かれているのは、染色家・柚木沙弥郎さんの「4つのパン」。作ったのは〈RUG BY GUR〉というポルトガルのラグブランド。組み合わせも面白いし、柚木さんのデザインのものもひとつくらい欲しいなと思ったときにちょうどいい。パンの絵というのもモダンである。¥39,000（イデーショップ 六本木店☎03-5413-3455）

08 **GUCCIのウォレット**

毎年のように財布を替える派と、使い続ける派がいたら、僕は後者だ。だから、ボロくなったときに素敵な財布と出合うと嬉しい。〈グッチ〉のロングウォレットは'70年代調のクラシックなロゴが入っている。これがいい。レザーやステッチのひとつひとつも誠実だ。¥83,000（グッチ ジャパン カスタマーサービス☎0120-88-1921）

12 **COMOLIのスウェット**

カレッジスウェットは間違いないが、この〈コモリ〉のシルク混スウェットはもはやスウェットではない感じで、着心地もニットのようである。ゆったりとしたフォルムに、厚からず薄からずの素材感。肌触りはもちろん言うことなし。新しいジャンルのスウェットに乾杯。¥24,000（ワグ インク☎03-5791-1501）

11 **HENDER SCHEMEのトートバッグ**

パステルカラーと持ち手が短いのがかわいい〈エンダースキーマ〉のトートバッグ。男も使っていいのだろうけど、こういうのを彼女にあげたいね。レザーでこの色というのもお洒落だが、ハンドルを付けることで生まれる、バケッタレザーの柔らかなドレープも見どころ。各¥32,000（スキマ 合羽橋☎03-6231-7579）

10 **POLYPLOIDのショーツ**

ショーツはショーツでも、このように大人びたものも一本欲しい。この〈ポリプロイド〉のものは、ピンストライプのスーツ地で仕立てられているのだが、それでいて、2タックのふわりとしたシルエットや、腰周りがゴム入りのギャザーというかしこまらないデザインとなっている。¥34,000（ライコス☎03-6317-7470）

15)

ウール地のパンツをはいて
のんびりゆったり。

14)

荷物を詰めたら、さあ
どこへ行こう？

13)

礼儀正しそうにパープルの
ニットベストを着てみたい。

18)

一度着たらハマりやすい
プルオーバーの半袖シャツ。

17)

ただのピンクではない。
うっすらとブルーも見える。

16)

やっていることは、ほんの
ちょっとしたことなんだけどね。

15 BLUE BLUE JAPANの パンツ

ウール100%なのに触るとひんやり。この不思議な素材は〈ブルーブルージャパン〉が生んだ「チルウール」。ネーミングもいいが、トーン違いの3種のブルーに太陽のようなオレンジをのせたタータン柄も渋い。後ろはゴム入りギャザーで楽チンだが、ベルトを通してビシッとしてもオーケー。¥26,000（OKURA☎03-3461-8511）

14 WTAPSの バッグ

「ブラックホール」という名の〈WTAPS〉のバッグのおかげで、つい荷物が多くなりがちな人間にとっても、「とりあえず全部入れちゃうか」と思える。マチも広めでたいていのものが入りそうだし、すごく頑丈。色はシルバーとブラックもあるけど、僕はオリーブとホワイトが気に入った。各¥9,000（GIP-STORE☎03-5489-4040）

13 BRYCELAND'S CO.の ニットベスト

ちょっとしたベストがあると有事の際に使えるものである。白いシャツを合わせて友達の結婚パーティや、Tシャツの上に合わせて旅行とかね。〈ブライスランズ〉のニットベストはスコットランド製。ニューラムズウールを使ったしっかりした編み地で、パープルも深い。¥25,000（ブライスランズ 東京☎03-6721-0133）

18 BAGGYの 半袖シャツ

半袖シャツはもうすでに何枚も持っている。でも、このプルオーバーの半袖シャツってやつは、探すと意外とないもので。〈バギー〉の一着は、ザ・クラシックなオックスフォードでボタンダウン、フラップポケット付き。肩幅狭め、身幅大きめで、着るとわかるが完全に合わせやすい。¥8,800（メイン☎03-3264-3738）

17 ACNE STUDIOS BLÅ KONSTの デニムジャケット

着込むほどに風合いが好きになりそうな〈アクネ ストゥディオズ ブロ コンスト〉のデニムジャケット。ウォッシュをかけたデニムをピンクの染料で製品染めしたボディには、元のインディゴブルーが潜んでいて、実にいい色。手間暇かけたピンクなのだ。¥45,000（アクネストゥディオズ アオヤマ☎03-6418-9923）

16 SMATHERS & BRANSONの キャップ

〈スマザース アンド ブランソン〉のカレッジものは一味違う。ダートマス大学の「D」は、アイビーリーガーが好んで着けるベルトよろしく、ニードルポイントで。ちょっとしたことだけどクラフト感がある。作るには時間もかかるそうだが、この特別感は現地の生協に行っても買えない。¥5,900（原宿キャシディ☎03-3406-3070）

21)

見つけたときが、
買い時のものってある。

20)

今日はボーダー柄を
はいてみることにした。

19)

晴れた日曜日には
マドラスチェックを。

24)

デッキシューズが履きたくなる
季節がやってきたね。

23)

思い切って、クリィミーマミ。
思い切りよすぎか？

22)

スタンダードはひねらない。
だから、はいてしまう。

21

US ARMYの
デッドストックのジャケット

ジャングルファティーグが好きなので、細かな違いがあるのは知っている。こちらは1960年代後半〜'70年代に使われた4thモデルの通称 "L-S"。つまり身幅がLARGEで着丈がSHORTなのだが、数ある型の中でも上下のポケットの間隔がなんともいい。こういう名品は見つけたら買いだ。￥28,000（アール☎080・7024・4090）

20

CORGIの
ソックス

つまらない人間なので、いつからかタンスには、白と黒の靴下しか入っていない。思い立ったが吉日ということで、〈コーギー〉のボーダーソックスを手に取ることから始めてみた。コットン素材のウェールズ製。座ったときにちらっと見えるのがボーダー柄だったら悪くないはず。各￥4,800（ホームステッド☎03・6455・4460）

19

BROOKS BROTHERSの
マドラスチェックシャツ

初夏の日差しにはどこの国でもマドラスチェックが似合うはずなのだ。インド発祥のチェック地を夏の風物詩にしたのは、〈ブルックス ブラザーズ〉。今季の柄もいろいろあったが、僕はこのブルー地にほのかに薫るピンクがなんだか気になって。もちろんインド製。￥12,000（ブルックス ブラザーズ ジャパン☎0120・185・718）

24

G.H.BASSの
デッキシューズ

そろそろデッキシューズでも履こうじゃない。意外にも〈G.H.BASS〉が初めて作ったというデッキシューズは、アメリカの森林警備員も愛用するゴツいソールが特徴。でも、武骨すぎず、どこか懐かしい顔つきなのは、トラディショナルなブランドのなせる業。各￥25,000（スティーブン アラン トーキョー☎03・5428・4747）

23

UNDERCOVERの
スウェット

最近たまに、こういったアニメのグラフィックものって見かける。1983年に始まったアニメ『魔法の天使 クリィミーマミ』を堂々と胸にプリントした一枚は、〈アンダーカバー〉のスウェットである。外国人が着ているとクールに見えるのが悔しいところではあるが、クールだ。￥27,000（アンダーカバー☎03・5778・4805）　©びえろ

22

EL CAMINO REALの
ピケパンツ

マイケル・タビアが作る〈エルカミーノ レアル〉といえば、デニムを思い浮かべる。と思いきや、アイビーらしい軽やかなピケ素材のものもあった。5ポケットで、無駄のないシルエットに小ぶりなポケット。誰がなんと言おうと、メイド・イン・USA！　￥22,000（ユーソニアン グッズ ストア☎03・5410・1776）

30)

時計メーカーでなくとも、
極上の腕時計はある。

32)

こういうのが作れるような
頭の柔軟な人間になりたい。

31)

キッチンにも
バウハウスを。

32 **IITTALAの グラスとカラフェ**

外側にあるはずのフルーテットという刻みが内側に入った〈イッタラ〉のグラスとカラフェ。触れると表面が滑らかという意外性が面白く、陽光が差せばキレイな影がテーブルに映し出される。デザイナーはそう、ジャスパー・モリソン。グラス各￥1,500、カラフェ￥13,000（すべてイッタラ☎0120･588･825）

31 **BAUHAUS TEA TOWELの キッチンタオル**

バウハウス出身のテキスタイルデザイナー、キティ・ファン・デル・ミール・デッカーが80年前にデザインしたというキッチンタオル。ドビー織りの生地は頑丈で柔らかく、洗いやすく、食器に残る水滴もバッチリ吸ってくれる。こういう何げない日用品こそ、しっかり選んで使いたい。各￥2,800（black&white☎045･228･8430）

30 **TOM FORDの 腕時計**

丸い穴が開くブレゲ針を再解釈し、インデックスを囲むデザインとするなど、随所にクラシックとモダンが同居した〈トム フォード〉の腕時計。丸いフェイスに白い文字盤、アラビア数字もシンプルに。ストラップは別売りで。時計￥1,300,000、アリゲーターストラップ￥75,000（ともにトム フォード タイムピース☎03･4360･5608）

33)

オードリー・ヘプバーンだって
きっと欲しかったはず。

35)

首を長くして待っていた
カトラリーがついに。

34)

ジェームズ・ボンドの水着は
こんなだったらしい。

35 **HEATH CERAMICSの カトラリー**

噂だけは聞いていた〈ヒースセラミックス〉のカトラリー。NYの工場ですべて手作業で仕上げられた、丸みを帯びた鏡面仕上げのステンレススチールは、器と同じく、シンプルで潔い。ミッドセンチュリー的グラフィックのボックスも当然とっておきたくなる。セットで￥12,800（プレイマウンテン☎03･5775･6747）

34 **SUNSPELの スイムショーツ**

〈サンスペル〉のスイムショーツも気になっている。なんといっても、映画「007／サンダーボール作戦」でショーン・コネリーがはいたものを再現したというから、たまらない。〈ロレックス〉のサブマリーナーもそうだけど、ジェームズ・ボンドの持ち物って気になるんだな。￥22,000（サンスペル 表参道店☎03･3406･7377）

33 **TIFFANY & CO.の ボックス**

もちろん空箱ではなく、ボーンチャイナで作られた〈ティファニー〉のボックス。僕は紙の箱も捨てずに使っているくらいなので、これなら堂々と置いておけるし、大事なものもしまっておける。プレゼントにもいいんじゃないかと思っている。各￥22,000（ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク☎0120･488･712）

38〕

どうやって着ようかと
考えている時間もまた楽しい。

37〕

何はともあれ、
ロゴの強さってあるよね。

36〕

パックTシャツって
あれば買っておきたくなる。

40〕

カバーオールだと思っていたら、
パジャマがモチーフだった。

42〕

お風呂上がりに
したいことがまたひとつ。

41〕

サンダルにはこれ。
あえての裏使いで。

39〕

イージースラックスも
鮮やかな初夏の色で。

38 **C.Eの メッシュジャケット**

工事現場で見かけそうなメッシュジャケットも、〈C.E〉が作るとシティな服になる。そもそも、こういう服を作ろうという発想も〈C.E〉にしかできない。ボディをダークグリーンにし、作業着ではリフレクターとなりそうな箇所をフェイクスエードに。とりあえず中は蛍光色のロンTで。¥52,000（C.E　www.cavempt.com）

37 **GAPの キャップ**

昔から僕にとっての〈ギャップ〉はこのロゴである。でも、このロゴものは、いつでもあると思いきや、ないときもあったりする。弧を描く'90年代のロゴは何に入っていても安定感抜群だが、まずは白いキャップから買ってみたいなと考えている。各¥2,900※赤のみ一部店舗限定（ギャップ新宿フラッグス店☎03-5360-7800）

36 **LOS ANGELES APPAREL × BEAMS／SOFFE／HANESのパックTシャツ**

パックものってやつは買って勉強するのが一番さ。〈ロサンゼルス アパレル〉×〈ビームス〉の2枚入り¥6,500（ビームス 原宿☎03-3470-3947）〈ソフィー〉の3枚入り¥5,800（ユーソニアン グッズ ストア☎03-5410-1776）〈ヘインズ〉各¥5,000（ヘインズブランズ ジャパン　カスタマーセンター☎0120-456-042）

42 **SLEEPY JONESの バスローブ**

高級ホテルに泊まったときにだけ着たことがあるバスローブ。〈スリーピー・ジョーンズ〉が初めて作ったバスローブは、太めのショールカラーにゆったりしたシルエットで、イエローなんて他にはない。柔らかなテリークロスが心地よく、風呂上がりもいい気分。¥27,000（THE MOTT HOUSE TOKYO☎03-6325-2593）

41 **SACAI × PENDLETONの ソックス**

カラフルな糸をふんだんに使った〈サカイ〉×〈ペンドルトン〉のソックス。〈ペンドルトン〉のネイティブアメリカン柄を裏使いし、エッジをぼんやりさせた印象に。これまた、はき違えてしまった感はあるかもしれないが、左右で異なる柄というのも、らしさ溢れるコラボだ。各¥6,500（サカイ☎03-6418-5977）

40 **LEMAIRE × SUNSPELの ジャケット**

カバーオールのような〈ルメール〉×〈サンスペル〉のジャケットは、〈サンスペル〉が過去に作ったパジャマをもとにデザインされたそうだ。素材はコットンポプリンなのだが、パジャマ感はまるでない。でも、とにかく格好いいジャケットってことは間違いない。¥48,000（サンスペル 表参道店）

39 **UNSLACKSの イージースラックス**

デザイナーの中野亮介さんが店で自らミシンで縫って作っている〈アンスラックス〉のパンツ。形はいつでも変わらないが、使う生地は時季で替わる。この薄手のサマーコーデュロイは発色のとびきりいいグリーン。アソートの紐が何色になるのかも密かな楽しみ。¥21,400※税込み（アンスラックス ストア☎03-6875-5780）

45)

ものづくりのひとつの正解が
ここにあるのかも。

44)

チェックの柄に
PENDLETONの文字。

43)

食わず嫌いの人に
はいてもらいたいね。

48)

フォルムもデザインも
ずっと探していた、この感じ。

47)

“THANKS”に潜む名優に
君は気づいただろうか？

46)

悩んだら、この3点セットで。
備えあれば憂いなし。

51)

アメリカ製のチープシックな
シアサッカーパンツ。

50)

眼鏡では珍しい、
ジャーマンスタイル。

49)

職人気質の国民性が
チラリとのぞくハンカチ。

46 THOUSAND MILEの Tシャツ、パンツ、サコッシュ

Tシャツ、パンツ、サコッシュ。旅先で最低限必要なアイテムがセットになっているのが〈サウザンドマイル〉。上下は速乾性に優れたナイロン地で、パジャマでもいいし、このまま外も歩ける。オールブラックのボディにパープルのネームタグが入るのがセットの証しだ。3点セット￥8,300（ハイ！スタンダード☎03･3464･2109）

45 BARBOUR × WACCO WACCOのポシェットとデイパック

解体と再生を繰り返し行ってきた〈ワッコワッコ〉だが、〈バブアー〉が好きすぎて今回は〈バブアー〉公認。「ビデイル」のポケットを外してポシェットにしたが、裏地がハウスチェックで、ジッパープルも本家のミニチュア版と芸は細かい。ポシェット￥25,000、デイパック￥42,000（ともにワッコワッコ　info@waccowacco.com）

44 N.HOOLYWOOD × PENDLETONのシャツ

“PENDLETON”の斜めの文字が冴えわたる、〈N.ハリウッド〉×〈ペンドルトン〉のチェックシャツ。鮮烈なレッドとネイビーのネルシャツ的格子柄も、レーヨン素材にのせるとこうも涼しげな印象に変わって面白い。たまには主張のあるシャツもいいものだね。￥35,000（ミスターハリウッド☎03･5414･5071）

43 NEATの パンツ

今年の夏こそ、白いパンツをはいて大磯にでも行ってみたい。〈ニート〉の2タック入りのスラックスタイプの一本は、白といってもアイボリーだから合わせやすいし、汚れてもさほど気にならない。生地はスーツにも使われるホップサック。裾にかけてテーパードするシルエットもよし。￥28,000（NISHINOYA☎03･6434･0983）

50 BUDDYOPTICALの 眼鏡

重厚なブローが古めかしい〈バディオプティカル〉の眼鏡は、かの松下幸之助も愛用していたという旧西ドイツのものをリデザイン。こう見えて意外とかけやすくて、誰がかけてもわりと知的に見える。若者ならちょっとは大人に見られるし、先輩方ならだいたい似合う。￥32,000（バディオプティカル☎06･6147･8834）

49 BLUMERの ハンカチ

「メイデンズ・ショップ」で見つけたのは、スイス製のバンダナ柄のハンカチ。〈ブリュマー〉は1800年代から存在するブランドで、創業当初は複雑な柄を木版で刷っていたとか、いないとか。水がキレイな国だから染色産業も盛んだそうで、この色とりどりの発色もうなずける。各￥2,400（メイデンズ・ショップ☎03･5410･6686）

48 HI-TECの スニーカー

常々スニーカーは、ダークホース的な存在を探している。ちょうどいいマイナー感を持った〈ハイテック〉は、ぽってりしたフォルムがおじさんっぽくもあり格好いいのだ。イギリス軍には納入実績もあるし、英国メイドを貫く姿勢にもかなり好感は高め。各￥23,000（ムーンスター カスタマーセンター☎0800･800･1792）

47 TAGDOESNOTMAKEYOU.の ビーニーとウエストポーチ

「T」の後のピリオドの後には「HANKS」。わかるよね？〈タグダズノットメイクユー〉のデザイナーがファンだそうで、ビーニーとウエストポーチを作った。ちなみに人のシルエットは映画「Big」でピアノを弾く前の彼の姿だそう。色も鮮やかに。ビーニー￥4,000、ウエストポーチ￥4,500（ともにサンバ☎03･3462･5044）

53)

アイスコーヒー用の
グラスはいかがかな？

52)

キュートな見た目に
騙されてはいけない。

55)

Tシャツだったら、
ニットTシャツがいいね。

54)

音よし、見た目よし、
ラジオも聴けるぞ。

53 **BULLPENの グラスと一輪挿し**

ヨーロッパのヴィンテージをモチーフに、琉球ガラスで作られた大きなゴブレット。アイスコーヒーを注いでみたら、飲みごたえもたっぷり。正十二面体の一輪挿しは、ポートランドのガビさんのお手製。どちらもハンドメイドならではの味わいがある。グラス￥4,600、一輪挿し￥4,500（ともにブルペン☎03-6407-0526）

52 **LOEWEの カエルのチャーム**

あー、なんてかわいらしい、〈ロエベ〉のカエルのチャーム。クラシックカーフスキンで作られた脚には一切の継ぎ目はなく、一枚革を折り込んで底を縫うことで、柔和な曲線を描いている。カエルくんのとぼけた表情も含めて、これぞアルチザンの技である。￥52,000（ロエベ ジャパン カスタマーサービス☎03-6215-6116）

55 **AURALEEの ニットTシャツ**

〈オーラリー〉のニットTシャツのように、見た目はシンプルなんだけど、つくりも質感も着心地も最高な一着を持っていると、これを着る日が待ち遠しくなる。リラックス感たっぷりの肩の落ちるシルエットには、中に大きめの白いTシャツを着て、カーキのチノパンでも合わせてみたい。￥29,000（オーラリー☎03-6427-7141）

54 **GENEVAの スピーカー**

今どきのスピーカーはすごいもので、いい音といいデザインで、FMラジオも聴けるとくる。スイスのオーディオブランド、〈ジェネバ〉の新作はもちろんBluetooth接続もできるスピーカーだ。ハリウッドで認められたというエンジニアによるプロダクトだと聞けば、これらも納得。￥24,800（ネイビーズ☎03-6434-1541）

51 **ERICK HUNTERの シアサッカーパンツ**

遠目で見るとブラウン一色だけど、よく見るとシアサッカー。ベルトループは付かず、フロントジップもない素っ気ない一本はアメリカの〈エリックハンター〉のパンツ。テーパードの入ったシルエットで、風通しもいい。意外となんでも合わせやすいのがこういうパンツ。￥12,000（メイデン・カンパニー☎03-5410-9777）

58〕

これがあれば週末も
楽しめそうだ。

57〕

雨はアガらないが、
気分がアガる長靴はある。

56〕

そういえば、あの靴紐を
キュッと縛るのは気分がいい。

60〕

日常生活ではこういう
バッグの背負い方はしない。

59〕

東海岸で活躍する
マー君の肩に掛けてあげたい。

62〕

機能美を持った服は
吉祥寺の屋上から生まれる。

61〕

ハワイではこれを
着ているといいと思う。

photo: Yoshio Kato
styling: Shinichi Sakagami, Yusuke Takeuchi, Junya Chino
text: Ku Ishikawa, Masaharu Ono
edit: Tamio Ogasawara

58 HELINOXの ビーチチェア

こちらの〈ヘリノックス〉のフォールディングチェアは、座面全体がメッシュの夏仕様。水遊びをした後の濡れた体でも座りたい放題。チェアにかけた付属のトートバッグに収まるサイズに畳めるので、海でも川でもどこへでも。週末はビーチチェアありきの計画を立てたい。¥22,000（エイアンドエフ☎03・3209・7575）

57 SUICOKEの 長靴

色合いが絶妙で、短めの丈も主張しすぎない〈スイコック〉の長靴。靴の〈スイコック〉としては初めて作ったものだそうだが、フロントジッパーがあるので脱ぎ履きしやすく、内側にはレザーを張っているから足にも馴染む。あれば、雨も待ち遠し。手前¥28,000、奥¥25,000（ともにオージー☎03・6456・4422）

56 TEMBEA × VINCENT SHOELACEのポーチ

巾着の紐を〈ヴィンセント シューレース〉の靴紐にした〈テンベア〉のポーチ。ボディと紐の組み合わせは、カラフルな3パターンで、どれもいい配色。単純に小物入れとして使うのもありだけど、セットになっているヌメ革ハンドルのビニールトートに入れて使えば、それはキュート。各¥15,000（テンベア☎03・3405・5278）

62 CCP × SOFTSの ショーツ

ウエストポーチのようにポケットが独立した〈CCP〉×〈ソフツ〉のショーツ。これは座った際にお尻で中身を踏まないためのひと工夫。前のポケットに手を突っ込むと、中が4部屋に分かれていて、なんだかいろいろ入れられそう。店主の我妻亮さんは“はくバッグ”を作ったということだ。¥22,000（ソフツ☎0422・45・5433）

61 DESCENDANTの 半袖シャツ

ハワイの原住民に伝わる象形文字で、〈ディセンダント〉のアイコンでもあるクジラや波を表現。それをガーゼのような爽やかな素材感のキューバシャツにのせ、一枚のハワイアンシャツを完成させた。にじみ出るオーラは常夏を感じさせ、どうにもハワイに行きたくなる。¥20,000（DESCENDANT☎03・5784・0314）

60 STONE ISLANDの ボディバッグとジャケット

みぞおちに装着する〈ストーンアイランド〉のバッグは、イタリアの奇才が生んだボディバッグの新しいかたちである。トップのハーネスにはパッドが入っていて、首にかけても疲れないのが地味にいい。荷物の出し入れもしやすい。ボディバッグ¥22,000、ジャケット¥52,000（ともにストーンアイランド☎03・6271・4654）

59 THE UNIONの バスタオル

ニューヨークね、と思ったら、入浴だった（笑）。〈THE UNION〉のバスタオルは、ピンストライプまで湯気にしている芸の細かさが好きなのだが、プールに持っていけば、すぐに人気者になれそうなのも好きである。ヤンキースのマー君にはいつか使ってもらいたいものである。¥2,400（ザ ブルークラス☎06・4303・8900）

STD

STANDARD

SUPPLY

egw-store.com

evergreen works ,inc.

TOD'S

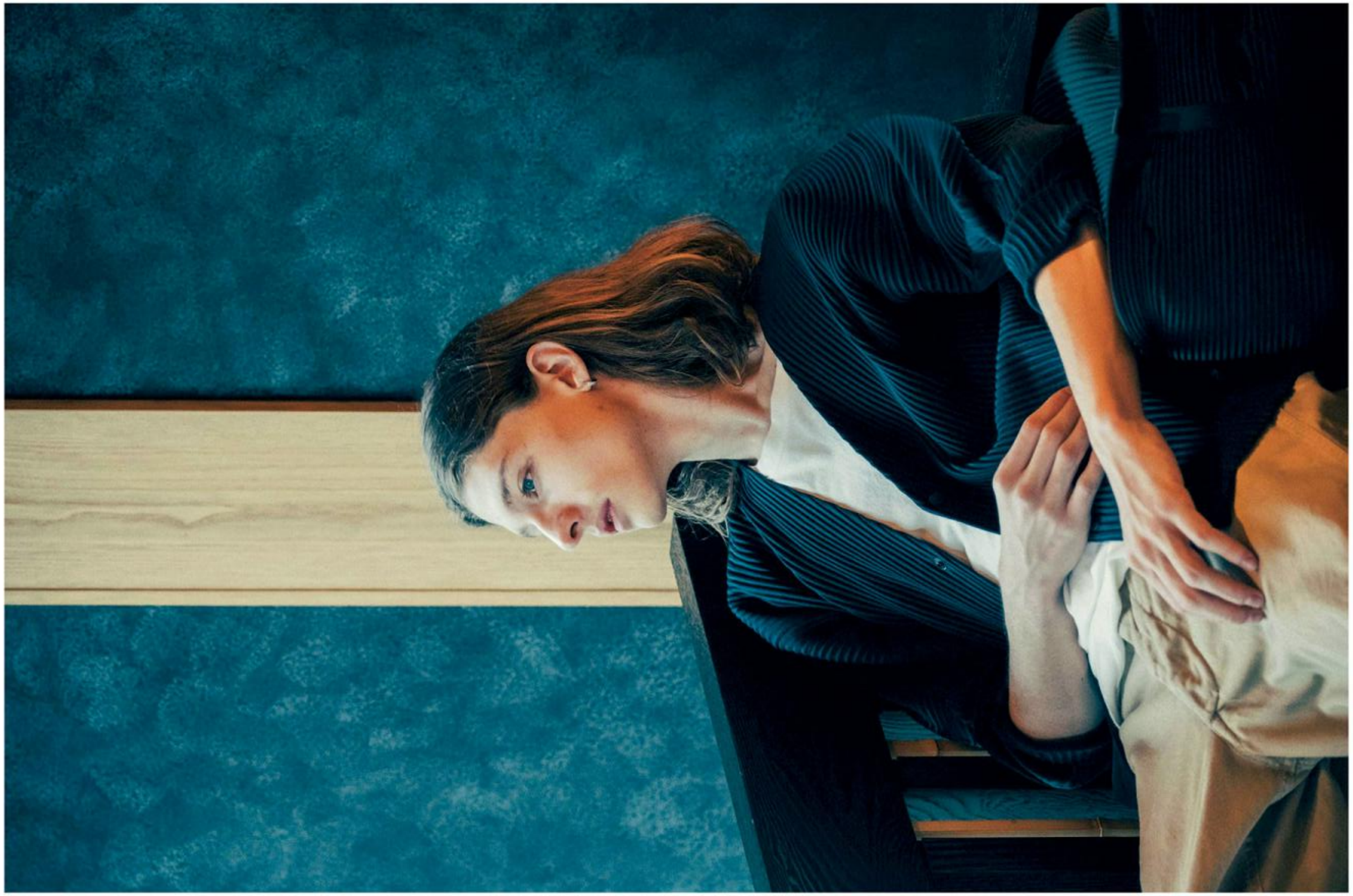
photo: Shunya Arai
styling: Shinichi Sakagami
grooming: Yoshikazu Miyamoto
edit: Ryoko Iino

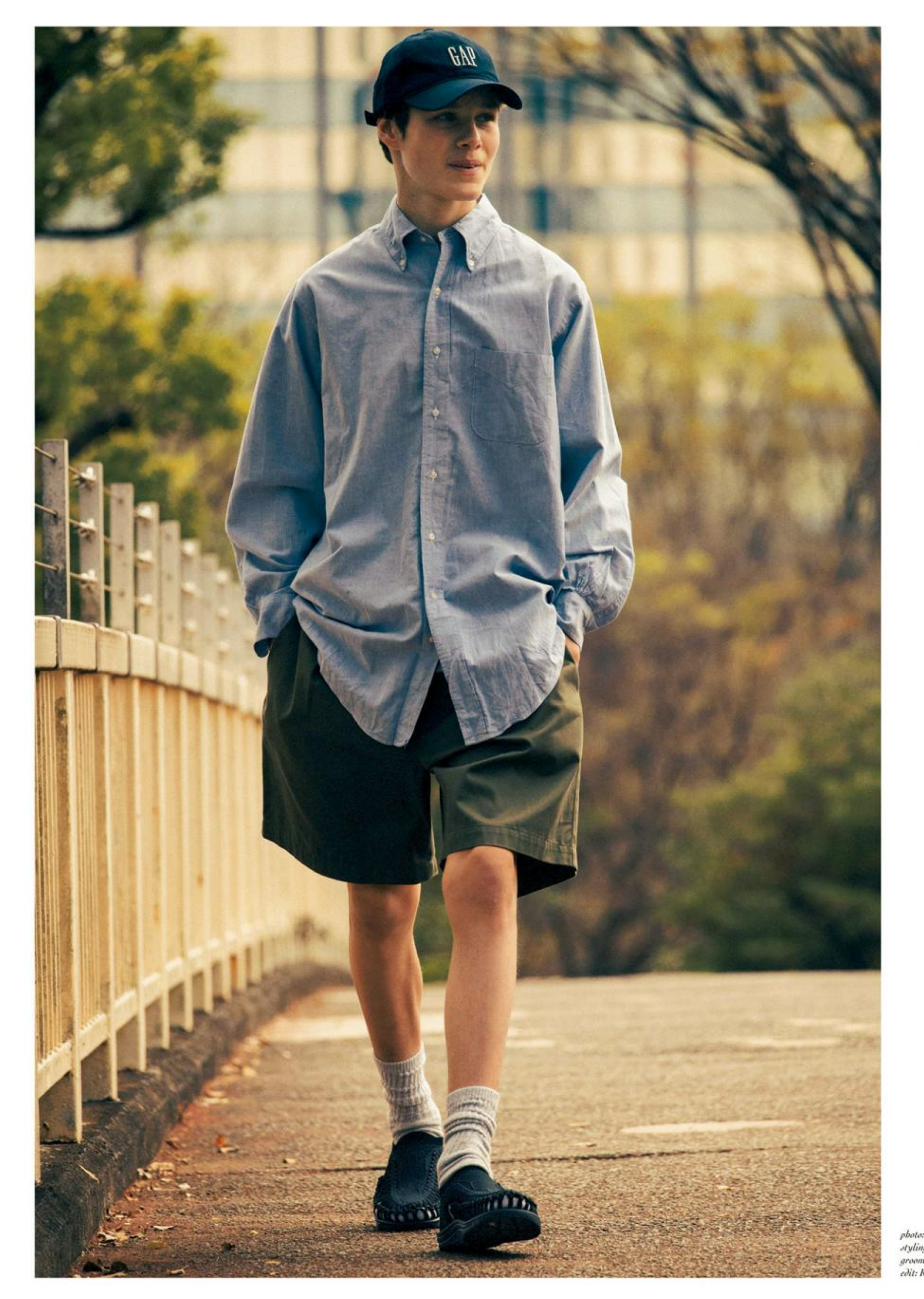
暖かくなってきてどんどん軽装になるこの季節。いい靴さえあれば着こなしはちゃんと決まるし、裏を返せば靴ばっかり欲しくなってしまう。スエードのシックなブーツもいいし、今どきのスポーティなスニーカーも捨てがたい……。右ページ／流線形のラバーソールがモダンなアンクルブーツは、つま先のボリュームが控えめでスマートなシルエット。品はあるのに気取らずに履くことができるから重宝しそう。「カセッタ ボラッコ」¥66,000（トッズ／トッズ ジャパン☎0120-102-578）　その他は私物　左ページ／オーセンティックなスエードのデザートブーツは深いブルーの色合いが春らしくて気が利いている。ソールにウッドを挟み込んだデザインにもイタリアの職人技を感じてぐっとくる。「ライト カジュアル ボラッコ」¥88,000、バックパック¥216,000（ともにトッズ／トッズ ジャパン）　その他は私物

右ページ／ボリュームのある気分なダッドスニーカーも〈トッズ〉らしくカーフレザーを使って上品。ソールにはブランドのイニシャル「T」のちょっとした遊び心。「アクティブスニーカー」¥99,000（トッズ／トッズ ジャパン☎0120-102-578）　ポロシャツ¥12,000（プロップス ストア☎03-3796-0960）　その他は私物　左ページ／ドレスシューズのように洗練、スニーカーのように快適。イタリアのクラフツマンシップとテクノロジーが融合した「トッズ ノーコード シューカー#01」¥81,000、バックパック¥216,000（ともにトッズ／トッズ ジャパン）　その他は私物

正直プリーツって何か女性が身につけるから素敵なものだと思っていた。けど、普段のチノパンにもデニムにも合うし、見た目にも涼しげで快適。なにしろ魔法のような着心地でラクチンなんだ。右ページ／Tシャツ￥9,000、ショートパンツ￥16,000、バックパック￥45,000（すべてHOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE／ISSEY MIYAKE INC.☎03-5454-1705） その他は私物　左ページ／ショートスリーブシャツ￥21,000、Tシャツ￥16,000（ともにHOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE／ISSEY MIYAKE INC.） その他は私物

右ページ／バックパック￥45,000、Tシャツ￥16,000（ともにHOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE／ISSEY MIYAKE INC.☎03-5454-1705） その他は私物　左ページ／Tシャツ￥16,000、カーディガン￥23,000、バックパック￥45,000（すべてHOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE／ISSEY MIYAKE INC.） その他は私物





KEEN

photo: Shunya Arai
styling: Shinichi Sakagami
grooming: Yoshikazu Miyamoto
edit: Ryoko Iino

サンダルでお馴染みの〈KEEN〉は、環境問題に取り組むカリフォルニア生まれ、ポートランド育ちのアウトドアブランド。その名のとおりにポップなルックスのニューモデル「ユニーク エヴォ」も地球に優しく進化した一足。足の動きにフィットするよう織られたエンジニアードニット製で、製造過程の資源の浪費や化学薬品の使用が軽減できるという。それだけでもなんだか特別だけど、左のページで紹介している"IRIOMOTE"パックは、さらに売り上げの10%が西表島の生態系保護プロジェクト「Us 4 IRIOMOTE」へ。マングローブが広がり、イリオモテヤマネコも生活する自然豊かな島も、今や観光客の増加で生態系に大きなダメージを受けているとか。そんな事態を救うべく、「知ろう」「守ろう」「話そう」「残そう」の4つのキーワードで、情報発信や実際の支援活動を行うのがこの取り組み。イリオモテヤマネコをモチーフにした柄は夏のワードローブにも映えるし、それで美しい島を少しでも助けられるのならばめちゃくちゃいい買い物だ。右ページ／「UNEEK EVO」￥13,000（キーン／キーン・ジャパン☎03-6416-4808）　その他は私物　左ページ／「UNEEK EVO IRIOMOTE」各￥13,000（キーン／キーン・ジャパン）　その他は私物

G.B.GAFAS

photo: Hirokazu Kobayashi
text: Kaz Yuzawa

JULIUS TART OPTICAL

NEW! **AR 44/24**

「ARスペシャルモデル2019」は
ニューヨーカーのお気に入り。

1950年代初頭、ニューヨークはマンハッタンの小さな眼鏡工場で、一つの眼鏡フレームが産声を上げた。その名は「アーネル」。アメリカが誇る伝統の二大フレーム、ボストン型とウェリントン型のいいとこ取りをしたようなそのフレームは、瞬く間に大戦景気に沸くニューヨークの街を席巻していった——。

時は流れて、2019年。すでに「アーネル」はその使命を終えたけれど、デザインを受け継ぐ形で復刻された〈ジュリアス タート オプティカル〉の「AR」が、現代の名品として注目を浴びている。「アーネル」の図面から型を起こし、日本が世界に誇る鯖江の匠の手で仕上げられた「AR」は、当然のことながらオリジナルのはるか上をいくクオリティを備えているのだ。

そんな「AR」に昨年、もう1ランク上の別注のスペシャルモデルが登場した。別注を仕掛けた〈G.B.Gafas〉は、国内外の選りすぐりの逸品を紹介する眼鏡のセレクトショップの草分け的存在である。

ではどこがスペシャルかというと、ヴィンテージフレームの風合いの再現性。具体的にはまず、手磨きの比率を上げることでフレームのエッジを際立たせ、よりシャープな印象を生み出している。次に、合口(フロントとテンプルの繋ぎ目)に面取りを施すことで、さらなる上質感を纏わせている点。他にもフロントの傾斜角など枚挙にいとまがないけれど、あとは「G.B.Gafas」の知識豊富なオプティ

JULIUS TART OPTICAL

AR 46/22

シャンに尋ねてみてほしい。

昨年、第1弾のスペシャルモデルに採用されたのは「AR 46/22」。日本人の顔の骨格にフィットしやすいレンズ幅46㎜、ブリッジ幅22㎜のこのモデルは、発売早々に見事完売。でも収まらないのは手に入れそこねたカスタマーだ。彼らの熱烈なリクエストを受けて、今年、第2弾を実施することになったのである。

そして今回のスペシャルモデルに選ばれたのが、なんと「AR 44/24」！ 前作よりレンズ幅が2㎜狭くブリッジ幅が2㎜広いこのモデルは、「アーネル」の時代からおしゃれ好きのニューヨーカーに愛されてきたモデルだ。「たかが2㎜、されど2㎜」。わずか2㎜の違いにもかかわらず、いい意味でのバタくささがグンと前面に押し出され、ヴィンテージ感も増している。今年の売り切れ御免は昨年より早そうな予感がする。

わずか2㎜の差がもたらす印象の違いに気づけるのは、基本フレームが同じだから。極めて高い完成度を備えたフレームを作り、一人ひとりの顔によりフィットさせるために多くのサイズ違いを製造するスタイルは、日本でこそほとんど馴染みがないけれど、とても理にかなっている。〈ジュリアス タート オプティカル〉でも現在、レンズ幅とブリッジ幅が違う5種類の「AR」を復刻している。

2㎜の違いがもたらす驚くほどの表情の変化を吟味しながら自分にふさわしい「AR」を選ぶのって、デザインが違う無数の眼鏡の中から1本を選ぶより、ずっと贅沢な行為だとは思わないか。

右ページ／「AR 44/24スペシャルモデル DEMI-AMBER」¥39,000　左ページ／「AR 46/22 DEMI-AMBER」¥37,000※参考価格（ともにジュリアス タート オプティカル／G.B.ガファス☎03-6427-6989）　カラーは他に、BLACK WOOD（上写真）。

島の服

#02. textile shirt / DESCENDANT

photo: Taro Hirano illustration: Anri Yamada
text: Tamio Ogasawara

“海には海の正装があるものなので”

ハワイが嫌いな人なんているのだろうか？　少なくとも僕は好きだし、暇があれば行きたいし、なんならワイキキの目抜き通りを歩いているだけでどうしようもなく楽しくなってしまうほうである。アラモアナショッピングセンターには滞在中何度も行くし、ホノルル動物園もチャイナタウンも好きだし、ボガーツで食べる朝食なんて最高だし、車を借りてノースショアにも行くし、ダイヤモンドヘッドも登るし、カハラにも行く。「カハラモールに行くと、『タウン&カントリー』のお店があるんだけど、無性にロゴが格好よく見えるんだよね」と西山徹さんがポロッと言っていたのを思い出したのは、夏のラインナップに〈タウン&カントリー〉と〈ディセンダント〉のコラボレーションものがたくさん揃っていたから。

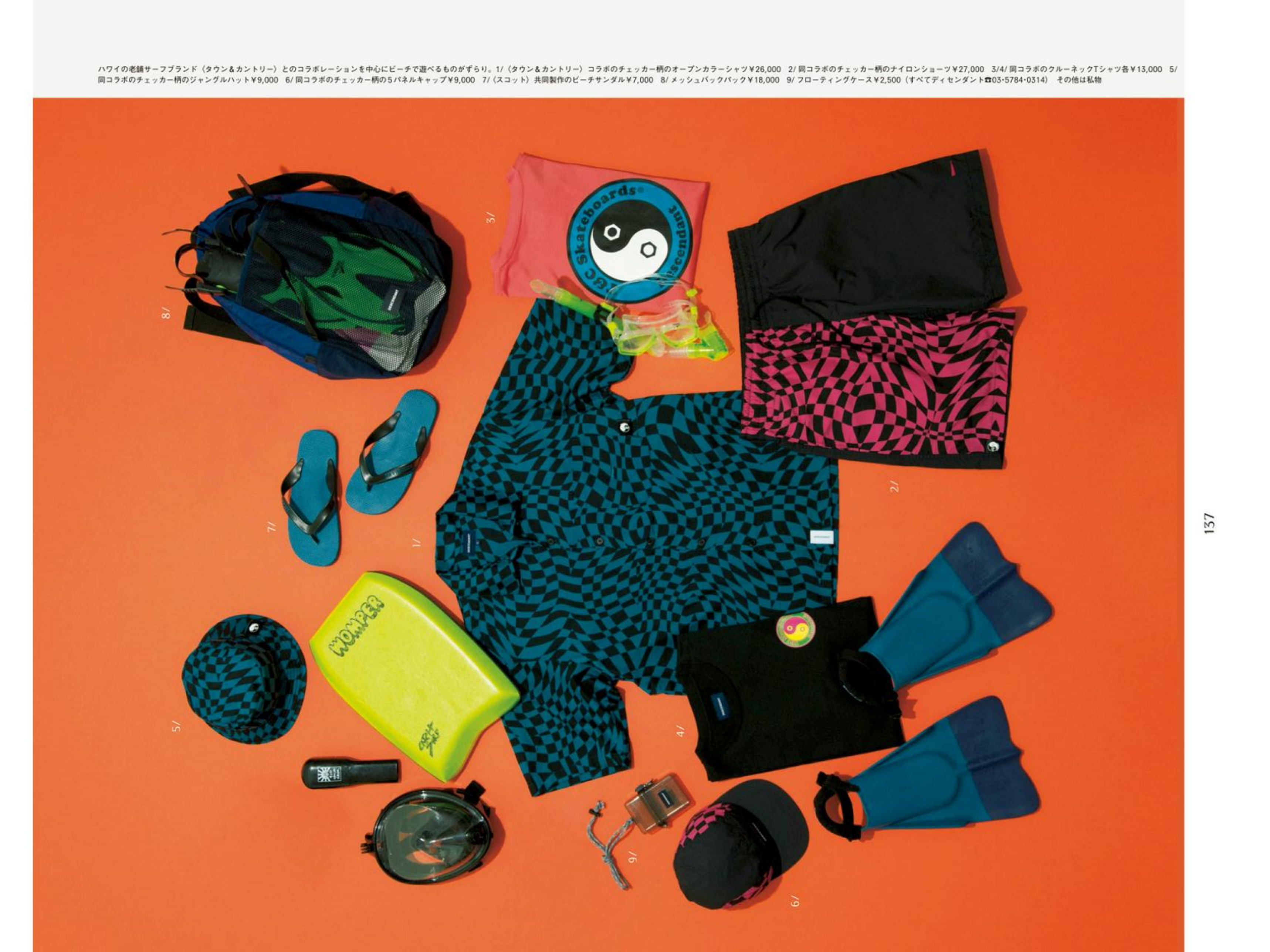
もう、とうに昔のものだと思っていた〈タウン&カントリー〉。1971年にクレイグ・スギハラがハワイのパールシティにオープンしたサーフショップが始まりで、インヤン（陰陽）のトレードマークなぞは、誰しも一度は見たことがあるであろう往年のサーフブランドだ。’70年代初頭はサーフカルチャーからスケートカルチャーへの発展の時期でもあり、アメリカ西海岸ではヴェニスビーチらへんの通称ドッグタウンにZ-BOYSも現れ、サーファーたちは海から陸へとあがり、かのジェイ・アダムス、トニー・アルヴァ、ステイシー・ペラルタらがコンクリートウェーブを攻めていたわけだ。

さすがの徹さんたちも年齢的にこのスケート文化は通ってこなかったそうで、僕らもそうだったけど、当時もどことなく古くささを感じていたものだが、ここ数年のオールドスクール的流れの中で、あらためて気になっていたみたい。知らないものは確かに面白いし、調べるほどに興味深くて、ゴンズもちょっと着ていたり、1986年のスラッシャーマガジンには「Town & Country Skate Designs」なるスケートボードの広告も載っていて、なんならケン・パークモデルも出ていたり（ちなみに、僕が小学校のときに乗っていたデッキが〈VISION〉のケン・パークモデルだったので懐かしい）。最近なんて、〈ヴァンズ〉ともコラボしていて、「SK8-Hi」や「Authentic」が出ていたり。とにかく、30年も遠ざかっていた〈タウン&カントリー〉が〈ディセンダント〉と出合うことで、いきなり最前線に出てきたものだから面食らったが、すぐにこれって最高じゃんと思い直した。

〈ディセンダント〉では当時のサーフボードに使われていたサイケデリックなチェッカー柄の開襟シャツを中心に、海にも入れるインナー付きのナイロンショーツやTシャツ、キャップにハット、ここにはないがタイダイ柄のTシャツも一緒に作った。よく見るとわかるのだが、インヤンのマークにキングピンナットのデザインが入っている。ちょっとしたことだけど、こういう遊びもらしくていい。

ハワイでは家族でシュノーケリングをして遊んでいるそうで、ハワイの〈DaFiN〉のスイムフィンを着けて泳ぐ。ハワイの正装用の履き物としても使われる〈SCOTT〉のビーチサンダルも今季もまた作っていた。よくよく見ると、〈ディセンダント〉の夏のものは、思いのほかハワイのもので彩られているのがわかる。ほら、やっぱりハワイって最高でしょ。

ハワイの老舗サーフブランド〈タウン＆カントリー〉とのコラボレーションを中心にビーチで遊べるものがずらり。1/〈タウン＆カントリー〉コラボのチェッカー柄のオープンカラーシャツ￥26,000　2/ 同コラボのチェッカー柄のナイロンショーツ￥27,000　3/4/ 同コラボのクルーネックTシャツ各￥13,000　5/ 同コラボのチェッカー柄のジャングルハット￥9,000　6/ 同コラボのチェッカー柄の5パネルキャップ￥9,000　7/〈スコット〉共同製作のビーチサンダル￥7,000　8/ メッシュバックパック￥18,000　9/ フローティングケース￥2,500（すべてディセンダント☎03-5784-0314）　その他は私物



GREGORY MOUNTAIN PRODUCTS | gregory.jp | DAY PACK / black tapestry / 20,000yen +tax
GREGORY

Shinnosuke Mitsushima 139 | Book, Movie & Music 142 | Kyohei Sakaguchi 144

INTERVIEW BOOK MOVIE MUSIC MODERNOLOGY

愉快な旅人。

聞き手 満島真之介 絵・題字 長田真作

第17回

ゲスト 中村俊郎

聞き手 満島真之介

なかむら・としろう｜1948年、島根県生まれ。近畿大学を卒業後、アメリカに留学し、日本人として初めて米国の装具士補の資格を取得する。'74年、中村ブレイス創業。20か国から注文が寄せられる世界企業へと成長させた。2008年、第6回渋沢栄一賞を受賞。

みつしま・しんのすけ｜1989年、沖縄県生まれ。NHK大河ドラマ「いだてん ～東京オリムピック噺～」が現在放送中。映画「キングダム」が全国公開中。テレビ朝日開局60周年記念5夜連続ドラマスペシャル「白い巨塔」は5月22～26日21時より放送。

俳優・満島真之介が尊敬する先達に会いに行く連載「愉快な旅人」。今回のゲストは、世界遺産・石見銀山を抱く島根県大田市大森町で、義肢装具などの開発・製作を行っている中村ブレイス株式会社の中村俊郎会長。満島さんが日本一周の自転車旅を行っていた10年前、俳優になる前の、まだ何者でもなかった満島さんを手厚くもてなしてくれたという中村会長に、人口約400人の大森町で10年ぶりの再会を果たしました。

＊　＊　＊

満島　ご無沙汰しております！

中村　あれから10年ですね。嬉しいです、こうして会いに来てくださって。まずはようこそ。お茶でも召し上がってください。

満島　いただきます！　今この辺りを通ってきたんですけど、10年前のことを思い出して懐かしかったです。

中村　すごく印象に残ってますよ。真っ黒に日焼けした真之介さんが、突然やって来てね。

満島　なぜここに足を運ぶことになったかというと、また長い話になるんですけど（笑）。実は生まれつき足首が悪くて、小さい頃から全国の整形外科やスポーツ医学の先生のところを訪ねて歩いてたんです。でも原因不明で、ずっと足を引きずって歩いてて。だからこそスポーツでは誰にも負けたくないと思って、運動会の徒競走でがんばって1位になったりしてたんですね。

　でも東京で学童の先生をしてた頃、姉が関わった『カケラ』という映画のアイデアが、中村ブレイスという義肢製作の会社から生まれたという話を聞いて、「ん？」と思って。調べたら義手や義足

だけでなく、インソールとかいろんなものを作られてて、人の欠けた部分を愛をもって補う仕事をされてるんだなと思ったんです。それでこれは絶対に会いに行かなきゃ駄目だって。

だから日本一周の旅の、ひとつの目的地がここだったんですよ。本当にいきなり、コンコンって訪ねていったんですよね。そうしたらすぐに「足を見せて」みたいな話になって。

中村 よく覚えてます。こういうことを言っていいかわからないですけど、真之介さんは足が大きいんですよ（笑）。プロのバスケットボール選手みたいに。

満島 そうなんです、30㎝くらいあるので（笑）。それで足の型を取って、インソールを作っていただいたんです。その日のうちに、ですよ。裏にサインを書いてもらって、一緒に写真を撮りましたよね。

中村 「ここで大地に足を着けて、あなたは世界へ羽ばたいていく」というようなことを書きましたね。あの時の写真も全部残ってます。

満島 本当にここが大きなスタート地点ですから。10年前は19歳から二十歳になる区切りのタイミングでしたけど、10年たって、平成の終わりと同時に30歳になるので、何としてでも今年ここに戻ってきたかったんです。もう一度原点に返りたいなって。

中村 ありがたいですよね。中村ブレイスは今年創業45年目に入りましたけど、私がアメリカ留学から石見銀山に帰ってきて、自宅前にあった納屋からスタートした時、最初はバカみたいだって言われたんです。当時の考えでは、世界の義肢製作を学ぼうとせっかくアメリカまで行って、誰もできないような体験をしてきたのに、わざわざ狭い納屋に戻ってくるなんてかわいそうだと思う人が多かったものですから。

でもアメリカで交通事故に遭って、霊安室に入るほどの大怪我をした私が、死にかけたのに生きて親元に帰れた、それはむしろ幸せなことだと思ったんです。帰国して山陰線の大田市駅に降り立った時は無一文でしたよ。ゼロに等しい状態です。それでも今まで学んだことを土台に、世界の石見銀山を拠点にして、ゼロから一歩一歩、ひとりの患者さん、ひとりの顧客から始めていこうと。だから夢に溢れてましたね。

満島 それが45年前のことだったんですね。

中村 小さな看板を掲げて創業したのが、1974年12月20日です。なぜその年かというとね、長嶋茂雄さんが巨人軍を引退したのが'74年。私、大好きだったんです。長嶋さんと私は同じ誕生日なんですね、2月20日。一回り違うんですけど。それなら同じ年に、あやかろうというわけではないけれども、看板を掲げようと思ったんです。長嶋さんが引退して、新しいチャレンジをするんだから、競争しようと（笑）。

満島 そんな理由だったんですね（笑）。

中村 でもどう考えても不可能ですよね。東京でも大阪でもない、山の中のゴーストタウンでしたから。病院すらないようなところで、仕事は何もありません。石見銀山で宿屋をするのならまだわかりますけど、義手義足を製作する環境としてはあまりにも恵まれてない。ところがそのの仕事のない町で新しく仕事を始めるということを、私は楽しもうと思ったわけです。むしろ誇りに思っていいんじゃないかと。まわりからは「夢男」だってい言われてね。

満島 夢男？

中村 私の愛称は夢男。夢を食うバクみたいな子だって言われてました（笑）。でも創業する時に父親が言ってくれた言葉は、俊郎は5人兄弟の末っ子で甘ちゃんだけど、やろうと思ったらやる子だと。だから仕事場の納屋もすぐに狭くなるだろうと言ってくれたんですね。

1人目の顧客が入ったのは正月を挟んで1月。当時80歳を過ぎていた私の母親のお兄ちゃんです。腰が痛いからということでコルセットを作ってあげたら、それをたいへん喜んでくれてね。そこから口伝えで顧客が2人、3人と増えていって、1、2年した頃には父親が言っていたとおり、納屋では狭くなってしまいました。

満島 本当の口伝えですよね。今の口コミとは違って。

中村 ええ。難しいスタートでしたけど、ひとりの顧客を大切に、生まれた町を大事にすることで、誰も考えられなかった道を歩むことになったんですね。本当に不思議なことをやってきたなと思います。

創業して10年近くたって、シリコーンゴム製のインソールが世界9か国で特許を取ることになった時はびっくり仰天でした。それまでのインソールは皮革製で通気性がなかったんです。蒸れちゃうんですね。一方でシリコーンゴムは遮断しているようで蒸れません。それを仕事としてということでなく、本当に困っている人のためにと思って作ったところ、だんだん世界に広がっていったんです。ひとりの顧客がまず山陰に広がって、広島に、東京に、北海道に、それからマレーシア、ロンドンと世界に広がっていった。電子産業なら別ですけど、私の義肢製作

石見銀山の美しい町並みを残すために、私財を投じて古い家の改修保存を続ける中村会長。「改修を終えた家はもう軒くらいになりますかね」（中村）。写真は改修された会長宅の縁側にて。

は手作りでしょう？

満島　そうですよね。しかも義手や義足に対する考えも、当時は今とだいぶ違ったでしょうから。

中村　そうなんです。今のように医療用具として認識されていない時代で、装具と言っても誰もピンとこない、そんな時でした。でも喜ばれるようなことをやらなければいけないと思ったんです。

　運のよさもあったでしょうね。お弟子さんもひとり、ふたりと増えていって、その後お嫁さんも来て（笑）。最初、一月の売り上げが1万円程度だったのが、知らぬ間に30万、40万、１００万という感じになっていったんです。その兆しが出てきた頃に家内を迎えたんですけど、それもありがたい出会いでしたね。

　それから15年くらいたって、中村ブレイスは小さな企業だけど非常にユニークな仕事をしているということで、当時の通産省からも注目してもらうようになったんです。われわれのような家内工業的な仕事ではまれな展開ですよ。

　こんなおかしい話がありましてね。次第に雑誌広告を出せるようになって、整形外科の専門誌に広告を出したんですけど、住所に「大田市大森町」ってあるのを、東京の人が「大田区大森」だと勘違いして。

満島　ああ、本当だ（笑）。そっくりですね。

中村　誰も島根県だとは思わないわけです（笑）。やっぱり常に思い出さないといけないのは、感謝してもらえる仕事をしないといけない、信頼を崩してはいけないということですね。全国に同業者がいるとはいえ、小さな業界ですよ。そこで私たちが独占しても仕方ない。だから自分たちが開発したものだといって欲張

愉快なコトバ

黙々と
小さき歩みや
かたつむり

らず、特許を取ってはいるけど、そこにこだわらずに分配しようというやり方を取ってきたんです。

　売り上げはどうしても少なくなります。最後まで中村俊郎は金持ちになれないと思いますけど（笑）、ゼロから立ち上げた会社ですし、みなさんに感謝される会社くらいにはなってもいいんじゃないかと思ったんです。それが今までずっと続いているんですね。

　本当に奇跡だと思います、人口４００人のこの町で。島根県全体で約68万人、大田市でも3万５０００人くらいでしょう？　そこから発信していって、みなさんに応援していただけるような会社になったわけですから。２００７年には世界遺産の町にもなりましたし、たった４００人の町で東京でもできないことが可能になったんです。

満島　パラリンピックなどをきっかけに義手や義足に関心を持つ人も増えたと思いますけど、会長はこの45年の間に、そういった周囲の変化をいちばん間近で見てこられたんじゃないですか？

中村　そうかもしれないですね。以前は障害者スポーツと呼ばれて、どちらかというと暗い、善意でみんなが励ますようなイメージでした。時代が変わって、今は努力すれば世界へ出ていけるんだという、前向きなイメージになりましたね。

　でも意外と早かった気もします。30年前、40年前は日本にそんな時代がやって来るのかなと疑問に思ってましたから。それがパラリンピックなどで非常にオープンになってきましたね。例えば競泳で活躍している一ノ瀬メイさんは、中村ブレイスが作ったトレーニング用の義手を使ってくれてるんです。

満島　そうなんですか？　東京パラリンピックでもメダルが期待されてる選手ですよね。

中村　彼女は近畿大学の水泳部所属で、私も通信制ですが、近畿大学の短期のほうを出ているので、そういった縁があったんですね。近大も喜んでくれて、おかげさまで表彰していただきました。喜んでもらえるというのは最高のプレゼントだと思います。

　中村ブレイスの座右の銘は、「黙々と小さき歩みや かたつむり」というものです。これは私が大きな影響を受けた父の言葉ですけど、売れる売れないは別にして、こんな島根の山の中でも、志を持って努力をくり返していけば面白い会社が成長するんだと、そう信じていたわけです。信じるというのは、少年のような気持ちですね。

満島　そういう気持ちを持った若い社員の方も、ここで仕事がしたいと言って、遠くからやって来るんですよね。

中村　それが私の誇りです。社員はみんな純粋ですね、真之介さんと同じで。

満島　今の時代は喜びを感じるとか、感謝されて嬉しいとか、その実感がとても希薄になっている気がするんです。でも令和の時代に向けて、この４００人の町で感じられるような豊かさ、人間や自然のありがたみを実感しながら生きていくことは、より大事になっていくと思っていて。僕らはそういったものを前の時代の人たちから受け継いでいかないといけないんですよね。

中村　ええ、それを継承できる若者たちが今ここにはいます。真之介さんにはそういった役割を担ってほしいですね。きっとこのような若い年代の人たちが一生懸命に受け継いでくださるでしょうから、新しい時代が非常に楽しみです。

HELLO
My Name is...

今月の新商品

HERMÈS

カードケース

いよいよキャッシュレスの流れが加速しつつある。ポケットの住人が軽くなるのはもちろんウェルカムなのだが、問題は常備したいカード類の整理整頓。免許証、保険証、パスモ、クレジットカード……コストコのカードは泣く泣く置いておくとして、これくらいは常に常備したいなぁ。そんなとき、やはりというか、いつもいい革小物が見つかる〈エルメス〉でまた欲しいものを見つけてしまった。発色のいいグリーンとイエローのカードケースは、1枚の革をくるくると巻いてポケットを作ってあり、ステッチも最小限にとどめてある逸品。よし、カード4枚ならラクラク入る。形もどこかスペーシーで、気分はちょっと未来。

写真のイエロー、グリーンの他、ブラックの3色展開。W7×H11㎝。カードケース各¥63,000（エルメス／エルメス ジャポン☎03-3569-3300）

BOTTEGA VENETA

バックパック

欲しいものとやりたいことが満載の今号。シアサッカーのセットアップなど、普段は着ない素材のものに袖を通すのって楽しい。それはバックパックにも同じことが言える。〈ボッテガ・ヴェネタ〉の新作は、ペーパーナイロンというドライな肌触りの素材を用いた機能性バッグのなバックパックだ。メッセンジャーバッグみたいに口の部分をくるくると巻いて留める作りも面白いし、日本限定カラーだという白い内張りも爽やかである。両サイドのポケットも大きめで、他にもポケット多数。すべてのポケットを閉じるとほぼオールブラックだから、どんなコーディネートでも合わせやすいところも、拡大解釈して機能性のひとつとして挙げておきたい。

5月15〜28日に伊勢丹新宿店メンズ館1階で開催されるポップアップショップにて先行販売。¥210,000（ボッテガ・ヴェネタ／ボッテガ・ヴェネタ ジャパン☎0120-60-1966）

CELINE

スニーカー

桜が散ったと思ったら、急にシャツ1枚で出かけられそうな陽気。春から夏までの間というのは毎年かなり短い気がする。そんな今、欲しいと思っているのが〈セリーヌ〉のハイカットスニーカー。冬は真っ黒のスニーカーばかり履いていたから、この時季は眩しいくらい真っ白なハイカットスニーカーだ。カーフレザーの上質な肌触りに、シュータンに控えめに輝くゴールドの“CELINE”。アッパーのデザインも主張の限りなく少ないパンチング仕様とあって、どんなパンツにも合わせやすい。細身のデニムとの相性も良さそうだが、まずは太めのチノと合わせてみよう。ソールがちょっと薄めなのもさらに控えめで好感持てるなぁ。

様々なバリエーションやコラボモデルも。セリーヌトリオンフミッドレースアップスニーカー カーフスキン¥81,000（セリーヌ バイ エディ・スリマン／セリーヌジャパン☎03-5414-1401）

POLO RALPH LAUREN

アノラックパーカ

あらゆるヴィンテージに、それぞれマニアという存在がいるものだけれど、こと〈ラルフ ローレン〉となるとレベルが違う気がする。最近は'90sの人気シリーズが次々と復刻となり、今年もまた！　というところで〈ポロ ラルフ ローレン〉から発表されたのがいわゆる“細ポロ”と呼ばれる写真のロゴのシリーズだ。1992年からリリースされたシリーズとのことだが、なぜかこのロゴといい、淡いカラーリングといい、マニアじゃない僕らにも優しい気がするアイテムで親しみが湧いた。ちょうどいまの時季にさらっと羽織りたいアノラックタイプのハーフジップパーカは、ロゴと同様に羽根のように軽快だ。

ポケットにはさりげなくフラップボタン付き。写真のパーカの他、Tシャツやキャップも併せて5月末より発売。ハーフジップアノラックパーカ¥51,000（ポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン☎0120-3274-20）

illustration: Daijiro Ohara　photo: Takeshi Abe　text: POPEYE

Pick-UP

© CHANEL
問シャネル(カスタマーケア)☎0120·525·519　http://www.chanel.com

5月29日(水)～6月4日(火)大阪で、〈シャネル〉新作ウォッチのイベント。

スポーティーでモダンなデザイン、セラミックの外装という斬新さで衝撃を与えたアイコンウォッチ〈J12〉が生まれ変わる。阪急うめだ本店 1F コトコトステージ 11、阪急メンズ大阪 1F 特設スペースで、イベント「DECISIVE SECONDS」を開催。6月5日(水)の全国発売に先駆けて新生〈J12〉を展示、販売する。

㊡11:00～20:00

〈アクアスキュータム〉神戸元町に、メンズ＆ウィメンズ複合店がオープン。

メンズ、ウィメンズ、ホワイトレーベルがすべて揃う日本唯一の路面店『アクアスキュータム神戸』が誕生。好みのボタン、ワッペンなどをカスタマイズして自分だけのトレンチコートを作れる。また、5月19日(日)まで同店限定ビジネスアイテムのパーソナルオーダーも実施中。○神戸市中央区浪花町64 ☎078·332·2191

1日1組2名〈最少催行人数1名〉
¥68,000／1名様（税・サービス料10%別、宿泊料別）
https://hoshinoya.com

『星のや東京』宿泊者限定プログラム、「脱デジタル滞在～武士の鍛錬～」。

日本旅館『星のや東京』ならではの1泊2日の滞在プログラム。デジタル機器を預け、江戸の剣術流派のひとつ「北辰一刀流」師範による剣術稽古、目覚めの黙想、心身を解放する温泉やスパトリートメントを体験。都心にいながら、現代社会のストレスを忘れてリフレッシュできる。公式サイトより14日前までに予約を。

¥60,000
〈GIOVE〉モノグラムトート

「EARLY SUMMER CAMPAIGN」で、〈フルラ〉がオリジナルギフトを進呈。

〈フルラ〉のメンズコレクションでは、レザーバッグのほか、クラッチバッグ、ウォレット、カードケースなどの革小物の新作が充実。新生活やギフトにもぴったりのアイテムが揃う。5月12日(日)までの期間中、税込¥50,000以上購入した方に、オリジナルハンカチをプレゼント。問フルラ ジャパン☎0120·951·673

「三井アウトレットパーク木更津」至近、展示場「LOGWAY BESS 木更津」誕生。

自宅向けのログハウスやドームハウスなど、個性的な木の家を展開する〈BESS〉が、木更津に展示場をオープン。受付後、〈カントリーログハウス〉〈ワンダーデバイス〉などを自由に体感できる。今秋には九州・博多にも新拠点がオープン予定。○千葉県木更津市金田東6-36-4 ☎0438·42·1511 10:00～18:00 火・水休

応募締切：A賞 6月30日(日)24:00／B賞 8月31日(土)24:00
http://shiro-t-audition.hanesjapan.com

〈ヘインズ〉の広告に出演できる！「白Tオーディション」応募受付中。

最も白Tの似合う男女各2名に選ばれるとハワイでの〈ヘインズ〉広告の撮影に参加できる(A賞)。また白Tが似合うハワイへのペア旅行券が4名に当たる(B賞)。応募はInstagramかTwitterで公式SNSをフォローし、賞ごとに指定のハッシュタグをつけて白Tの画像(A賞は着用画像)を投稿して。

Us 4 IRIOMOTE　https://www.us4iriomote.org
問03·6416·4808

西表島の自然や文化を継承するために。プロジェクト「Us 4 IRIOMOTE」発足。

アウトドア・フットウェアブランド〈KEEN〉が牽引する「Us 4 IRIOMOTE」は、同島の豊かな自然と文化を「知ろう」「守ろう」「話そう」「残そう」の4つのキーワードを軸に活動する。関連商品の売上の一部は、島で活躍する動物・文化保護団体への支援、ツーリストへの「エシカルツーリズム」啓蒙活動などに役立てられる。

¥100,000

〈オシアナス〉驚きのお手頃価格、Bluetooth®搭載電波ソーラーウオッチ。

エントリーシリーズといえるクラシックラインの新作〈OCW-T3000-2AJF〉は、標準電波受信機能による時計単体での時刻修正に加え、Bluetooth®を利用したスマートフォンリンクによる時刻修正機能を完備。イメージカラーの青を文字盤に散りばめ、個性的な幅広のベゼルが特徴。問カシオ計算機㈱☎03·5334·4869

〈ロクシタン〉2019年のヴァーベナコレクション第1弾。

3つの楽園をテーマにした〈ル パラディ コレクション〉第1弾は〈シトラスヴァーベナ〉。フレッシュなヴァーベナ、レモンやグレープフルーツなどのジューシーで爽やかな香り。限定パッケージのオードトワレ、ツヤやかな肌へ導くボディジェリーなど全4品。問ロクシタンジャポン カスタマーサービス☎0570·66·6940

登場人物

ポール
シティボーイに憧れ、片田舎から東京へやってきた青年(童貞)。

ジョン
ポールの隣人。東京生まれ東京育ち、生粋のシティボーイ？

ジョン&ポール 待ち伏せは来月まで待って…

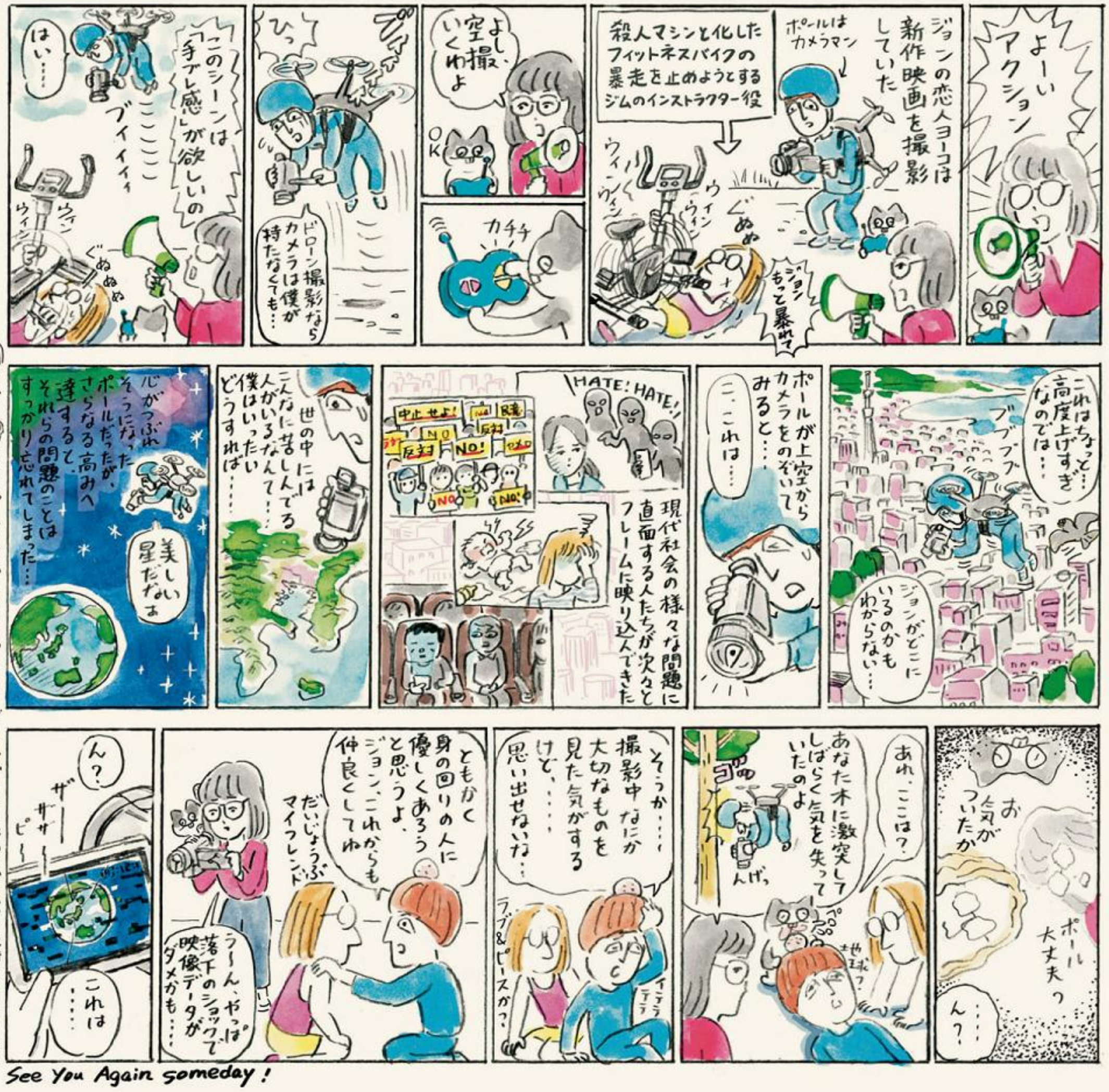
最終話　Paul In The Sky With Video Camera

あらすじ

ジョンとポール、時々ヨーコのSF（少し不思議）な掛け合いも、最終回にして宇宙へ……。またどこかで！

作・死後くん

しごくん｜イラストレーター。1977年、愛知県生まれ。ほのぼのマンガ、『I My モコちゃん』発売中。
http://sigokun.tumblr.com



あとがき　ジョン&ポールは今回でおしまいです。ありがとうございました。いまからハワイに行ってきます（死）

See You Again someday!

POPEYE No.867　7月号は6月8日発売！

特集・面白い映画、知らない？

とにかく面白い映画が観たいのだ。そんなシンプルな動機で映画好きのみなさんに総力取材。
スリル重視のアクション派も爆笑ラブコメ好きも、これで今年は観る映画に困らない大特集！

Sanders
military collection
Made in England

SHOEMAKERS SINCE 1873

official hp www.sanders.jp instagram@sanders_jp

POPEYE 866 ポパイ6月号

2019年6月号（毎月9日発行）5月9日発売　第44巻 第6号
昭和52年4月27日 第三種郵便物認可

発行人／石渡健文
編集人／松原 亨

〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10
編集部 tel:03・3545・7160　受注センター tel:049・275・1811

マガジンハウス

定価840円 本体778円 雑誌18029-6
© 株式会社マガジンハウス　2019 Printed in Japan 大日本印刷株式会社

4910180290695
00778